

附

錄

諸規程

文科大學規程

(明治三十九年八月十六日制定)

第一 授業

第一條 本學ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク

第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分テテ正科目及副科目トナス

一 哲學科

正科目

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會學

副科目

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 佛蘭西語 獨逸語 梵語 希臘語 羅甸語

二 史學科

正科目

國史 支那史 東洋史 西洋史 最近世史 史學研究法 地理學

諸規程

副 科 目

古文書學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學 英語
獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 支那語 朝鮮語 希臘語 羅甸語

三 文 學 科

正 科 目

文學概論 國語學 國文學 支那語學支那文學 ○英文學 ○獨逸文學 ○佛蘭西文學 ○梵語學梵文學
言語學

專攻科目トセサル○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ

副 科 目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 羅甸語 希臘語 哲學概論 心理
學 教育學教授法 美學美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテコレヲ授ク

第四條 學生ハ三學科中ノ正科目ニ屬スル一科目ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ

第五條 各學科正科目ノ授業ハ之ヲ普通講義特殊講義及ヒ演習ニ分チ普通講義ハ該科目ノ屬スル學科ノ學生一般
ヲシテ必修セシメ特殊講義及ヒ演習ハ專攻科目ニヨリ其必修スヘキモノヲ定ム

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム

但專攻科目ニ依リ必修トナスコトアルヘシ

第六條 學生ニシテ所屬學科以外ノ科目ヲ聽講セントスルモノハ學長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 普通講義特殊講義及ヒ演習ノ時數ハ各一週二時間乃至四時間トス

第二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

科目試問ハ毎年六月之ヲ行フ學生ハ其科目ノ聽講ヲ了リタル學年ニ於テ其試問ヲ受クヘシ

論文試問ハ專攻科目ノ範圍ニ屬スル論題ニツキ學生ノ提出シタル論文ノ審査及ヒ其論文ニ關スル口頭試問ヨリ成ル

第九條 各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

三學年在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 論文試問ハ學長ノ指定シタル教官講師之ヲ行フ

第十一條 科目試問及ヒ論文試問ノ及第ヲ以テ卒業トス

第三 在 學

第十二條 在學ハ六年以上ニ亘ルコトヲ得ス 但兵役ノ爲メ許可シタル休學日數ハ之ヲ算入セス

第四 選 科 生

第十三條 選科生ハ左ノ資格ヲ有スル者及教授會ニ於テ同等以上ノ學力アリト認メタル者ニツキ試問ヲ行ヒ、教授會ノ議ヲ經テ其入學ヲ許可ス

一 師範學校中學校卒業生

二 當該學科ニ關シ師範學校中學校高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

○大正十二年一月八日改正要點

第二條ノ二 史學科副科目古文書學の前に「考古學」を加う。

○大正十四年十二月二十八日改正要點

第二條ノ二 史學科副科目中より「考古學」を削除し、同項正科目の終りに「考古學」を加う。

第十四條 「選科生ニ對シテハ試験ヲ行ハサルコトヲ得」を追加す。

○大正十五年十一月五日改正要點

第二條ノ一 哲學科正科目の終りに「佛敎學」を加え、印度哲學史と共にその頭に○印を附し、且つその末項に「○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ、但右科目ノ内其一ヲ專攻セントスル者ニアリテハ當該科目ヲ選フヘシ」を加う。

○昭和七年三月七日改正要點

第二條ノ二 史學科正科目中の「支那史」及び「最近世史」を削除す。

第二條ノ三 文學科正科目中の「國語學」と「國文學」を合して「國語學國文學」に改む。

第四條の終りに、「但史學科ノ史學研究法、及文學科ノ文學概論ハ專攻科目ヨリ除ク」を加う。

○昭和十三年三月二十六日改正要點

第二條ノ一 哲學科正科目に「日本精神史」を加え、正科目○印の科目の選擇に關し「○符ノ科目ノ普通講義ハ之ヲ專攻科目トセサル場合ニ限り其一ヲ選フヘシ」と改め、副科目に「露西亞語」、「伊太利語」、「支那語」を加う。

第二條ノ二 史學科正科目に「日本精神史」を加え、副科目に「人類學」、「伊太利語」、「梵語」を加う。

第二條ノ三 文學科正科目に「日本精神史」を加え、副科目に「伊太利語」を加う。

第三條 「但副科目ニ屬スルモノノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲ササルモノアルヘシ」の但書を加う。

第四條 專攻科目は「所屬學科ノ正科目ノ一」を選ぶべきことに字句を改め、又但書に於て「日本精神史」は專攻科目より除くことに定む。

第五條 「尙科目ニヨリ別ニ講讀又ハ實習ヲ課シ之ヲ必修セシムルコトアルヘシ」を追加す。

第七條 現行條文に「各種ノ」の三字を加え、個々の普通講義、特殊講義及び演習の時數を定むるものなること明らかならず。

第八條 現行の第八條一項を獨立せしめて第八條とし、二項、三項はこれを第九條及び第十條に移す。

第九條 現行第八條二項、第九條一項の科目試問に關する規程を纏め、試問時期を變更することあるべき但書を加え「科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付其學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ但科目ニヨリ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ其時期ヲ變更スルコトアルヘシ各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス」とす。

第十條 現行第八條三項、第九條二項、第十條の論文試問に關する規程を纏め、「論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ専攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ 三學年以上在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス 論文試問ハ論文ノ審査及ヒ之ニ關スル口頭試問ヨリ成リ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ」とす。

第十一條 新たに科目試問、論文試問に關し届出および提出の時期を定む。

第十二條(現第十一條) 通則改正に従い、「卒業」を「學士試験合格」に改む。

第十三條(現第十二條) 通則改正に従い、休學期間はすべて在學期間に算入せざることとし、「但休學期間ハ之ヲ在學年ニ算入セス」と改む。

第十四條 新たに「第十二條ノ學士試験ニ合格シタル者ハ學籍ヲ脱ス」と定む。

第十七條 通則改正に従い、新たに「學生票ハ入學ノ始ニ之ヲ交付ス 學籍ヲ脱シタルトキハ學生票ヲ返付スヘシ」と定む。

第十八條 「本學部ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ本學部ノ行フ身體検査ヲ受クルコトヲ要ス」を加う。

第十九條 「再入學ヲ志望スル者及休學期間中復學セントスル者其出願又ハ屈出ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ身體検査ヲ行フコトアルヘシ休學期間ノ經過ニ因リ復學シタル者亦同シ」を加う。

○昭和十四年一月二十五日改正要點

第二條ノ三 文學科正科目の中に「西洋古典文學」を加え、また「國語學國文學、支那語學支那文學ヲ專攻スル場合ニ於テハ、○符ノ科目ノ普通講義及西洋古典文學ノ普通講義ノ中其一ヲ選フヘシ」を加う。

文學部規程 (昭和十六年三月一日改正)

第一 授 業

第一條 本學部ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク

第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分チテ正科目及ヒ副科目トナス

(一) 哲 學 科

正 科 目

哲學 西洋哲學史 ○印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會學 ○佛教學 日本精神史

○符ノ科目ノ普通講義ハ之ヲ專攻科目トセサル場合ニ限り其一ヲ選フヘシ

副 科 目

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 獨逸語
佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(二) 史學科

正科目

國史 東洋史 西洋史 史學研究法 地理學 考古學 日本精神史

副科目

古文書學 人類學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學
英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(三) 文學科

正科目

文學概論 國語學國文學 支那語學支那文學 ○英文學 ○獨逸文學 ○佛蘭西文學 ○梵語學梵文學 西
洋古典文學 ○伊太利語學伊太利文學 言語學 日本精神史
專攻科目トセサル○符ノ科目ノ普通講義ハ其一ヲ選フヘシ

國語學國文學、支那語學支那文學ヲ專攻スル場合ニ於テハ○符ノ科目ノ普通講義及西洋古典文學ノ普通講
義ノ中其一ヲ選フヘシ

副科目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 希臘語 羅甸語 西班
牙語 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテ之ヲ授ク但副科目ニ屬スルモノノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲ササルモ
アルヘシ

第四條 學生ハ所屬學科ノ正科目ノ一ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ但史學研究法、文學概論、日本精神史ハ專攻科

目ヨリ除ク

第五條 各學科正科目ノ授業ハ之ヲ普通講義特殊講義及ヒ演習ニ分チ普通講義ハ該科目ノ屬スル學科ノ學生一般ヲシテ必修セシメ、特殊講義及ヒ演習ハ專攻科目ニヨリ其必修スヘキモノヲ定ム尙科目ニヨリ別ニ講讀又ハ實習ヲ課シ之ヲ必修セシムルコトアルヘシ

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム但專攻科目ニヨリ必修トナスコトアルヘシ

第六條 學生ニシテ所屬學科以外ノ科目ヲ聽講セントスルモノハ學部長ノ許可ヲ受クヘシ

第七條 各種ノ普通講義特殊講義及ヒ演習ノ時數ハ一週ニ時間乃至四時間トス

第二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

第九條 科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付其學年ノ終ニ於テ之ヲ行フ但科目ニヨリ特別ノ事情ヲ生シタルトキハ其時期ヲ變更スルコトアルヘシ

各科目特殊講義ノ試問ハ該科目普通講義ノ試問ニ合格シタル者ニアラサレハ之ヲ受クルコトヲ得ス

第十條 論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ專攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ

三學年以上在學ノ者ニアラサレハ論文試問ヲ受クルコトヲ得ス

論文試問ハ論文ノ審査及ヒ之ニ關スル口頭試問ヨリ成リ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ

第十一條 科目試問ヲ受ケントスル者ハ一月三十一日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ但第九條第一項但書ニヨリ試問時期ヲ變更スル場合ニ於テハ別ニ届出ノ期限ヲ定ム

論文試問ヲ受ケントスル者ハ十一月三十日迄ニ題目ヲ届出テ翌年一月十五日迄ニ論文ヲ提出スヘシ

第十二條 科目試問及ヒ論文試問ニ合格シタル者ハ大學令第十條ニ依ル學士試驗ニ合格シタルモノトス

第三 在 學

第十三條 在學ハ六年ヲ超ユルコトヲ得ス但休學期間ハ之ヲ在學年ニ算入セス

第十四條 第十二條ノ學士試驗ニ合格シタル者ハ學籍ヲ脱ス

第四 選 科 生

第十五條 選科生ハ左ノ資格ヲ有スル者及ヒ教授會ニ於テ之ト同等以上ノ學力アリト認メタル者ニツキ試問ヲ行ヒ教授會ノ議ヲ經テ其入學ヲ許可ス

一 師範學校、中學校卒業生

二 當該學科ニ關シ師範學校、中學校、高等女學校教員免許狀ヲ有スル者

第十六條 選科生ニ對シテハ試問ヲ行ハサルコトヲ得

第五 學 生 票

第十七條 學生票ハ入學ノ始ニ之ヲ交付ス

學籍ヲ脱シタルトキハ學生票ヲ返付スヘシ

第六 身 體 檢 査

第十八條 本學部ニ入學ヲ許可セラレタル者ハ本學部ノ行フ身體檢査ヲ受クルコトヲ要ス

第十九條 再入學ヲ志望スル者及休學期間中復學セントスル者其出願又ハ届出ヲ爲シタルトキハ之ニ對シ身體檢査ヲ行フコトアルヘシ休學期間ノ經過ニ因リ復學シタル者亦同シ

附 則

第二十條 本規程ハ昭和十三年三月一日ヨリ之ヲ施行ス

授業並ニ試問ニ關スル臨時措置 (昭和十九年十月一日決定)

授業並ニ試問ニ關スル臨時措置トシテ當分ノ間「文學部規程」ノ一部ヲ適用セサルコトトシ且若干ノ變更ヲ加フルコト次ノ如シ

第一 授 業

第一條 木學部ニ哲學科、史學科、文學科ヲ置ク

第二條 各學科ニ屬スル科目ヲ分チテ正科目及ヒ副科目トナヘ

(一) 哲 學 科

正 科 目

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 宗教學 社會

學 佛教學 日本精神史

副 科 目

生物學 生理學 精神病學 文學概論 國文學 支那文學 經濟學 統計學 教育行政法 英語 獨逸語

佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語

(二) 史 學 科

正 科 目

國史 東洋史 西洋史 史學研究法 地理學 考古學 日本精神史

副 科 目

古文書學 人類學 哲學概論 心理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 文學概論 國文學 支那文學

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語
(三) 文學科

正科 目

文學概論 國語學 國文學 支那語學 支那文學 英文學 獨逸文學 佛蘭西文學 梵語學 梵文學 西洋古典文學 伊太利語學 伊太利文學 言語學 日本精神史

副科 目

英語 獨逸語 佛蘭西語 露西亞語 伊太利語 支那語 朝鮮語 アイヌ語 梵語 希臘語 羅甸語 西班牙語 哲學概論 心理學 教育學 教授法 美學 美術史

第三條 前條ノ科目ハ三學年ニ配當シテ之ヲ授ク 但副科目ニ屬スルモノノ中ニハ學年ニヨリ授業ヲ爲ササルモノアルヘシ

第四條 學生ハ所屬學科ノ正科目ノ一ヲ選ヒテ專攻科目トスヘシ 但史學研究法、文學概論、日本精神史ハ專攻

科目ヨリ除ク

第五條 (第一項不適用)

副科目ハ當該學科ノ學生ヲシテ隨意ニ聽講セシム 但專攻科目ニヨリ必修トナスコトアルヘシ

第六條 (不適用)

第七條 (不適用)

第二 試 問

第八條 試問ヲ分チテ科目試問及ヒ論文試問トス

第九條 科目試問ハ學生ノ履修シタル科目ニ付之ヲ行フ

(第二項不適用)

第十條 論文試問ハ科目試問ニ合格シタル者ニ對シ專攻科目ノ範圍ニ關スル論題ニツキ之ヲ行フ

二年間以上在學シタル者ハ論文試問ヲ受クルコトヲ得

論文試問ハ教授會ニ於テ指定シタル教官講師之ヲ行フ

第十一條 科目試問ヲ受ケントスル者ハ豫告セラレタル日迄ニ受験科目ヲ届出ツヘシ

論文試問ヲ受ケントスル者ハ豫告セラレタル日迄ニ題目ヲ届出テ 豫告セラレタル日迄ニ論文ヲ提出スヘシ

附 記

本措置ハ昭和十九年十月一日ヨリコレヲ實施シ各學年生一般ニ適用セラレルヘキモノトス

京都帝國大學文學部規程

(昭和二十一年三月三十日改正)

第一 學 科

第一條 木學部ニ左ノ三學科ヲ置ク

哲學科、史學科、文學科

第二條 三學科ニ分屬スル專攻科目ハ次ノ如シ

哲 學 科

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 宗

教學 佛教學

史 學 科

國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 地理學

文學科

國語學 國文學 支那語學 支那文學 イギリス文學 フランス文學 イタリア語學 イタリア文學 梵語學 梵文學 西洋古典文學 ドイツ文學 言語學

第二 研究

第三條 研究科目ハ次ノ如シ、但シ時宜ニ由リテ施行セラレサルモノアルヘシ

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學 美學 美術史學 社會學 宗教學
佛敎學 基督敎學 論理學 科學概論 科學史 數學 數理哲學 物理學 生物學 生理學 精神病學 精神學
神工學 法律哲學 法制史 政治學 經濟學 統計學 教育行政法 史學研究法 國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 地理學 地質學 人類學 民族學 民俗學 神話學 古文書學 書誌學 日本思想史 印度文學 支那學 イスラム學 古代西亞學 文藝學 國文學 國語學 支那文學 支那語學 イギリス文學 アメリカ文學 フランス文學 ドイツ文學 イタリア文學 ロシア文學 北歐文學 林文學 梵語學 ギリシヤ文學 ラテン文學 言語學 梵語 巴利語 印度諸語 西藏語 アヴェスタ語 ギリシヤ語 ラテン語 中世ラテン語 イタリア語 ポルトガル語 イスパニア語 プロヴァンス語 フランス語 ロシア語 ゴート語 北歐諸語 ドイツ語 オランダ語 イギリス語 アラビア語 ヒブル語 支那語 マデアール語 滿洲語 蒙古語 トルコ語 朝鮮語 琉球語 アイヌ語 南亞諸語 北亞諸語 中亞諸語 アメリカ諸語 フリカ諸語

第三 試問

第四條 試問ヲ分チテ科目試問並ニ論文試問トス

第五條 科目試問ノ單位及ソノ數ハ別ニコレヲ定ム

第六條 論文試問ハ所定ノ科目試問ニ合格シ且ツ三學年在學シタル者ニ對シテ行ハルヘシ

但シ論題ハ專攻科目ノ範圍内ニコレヲ限ル

第七條 論文ハ教授會ノ指定シタル教官コレヲ審査ス

第八條 試問實施ノ期日ソノ他ニツキテハ豫メ告知セラルヘシ

第九條 所定ノ科目試問竝ニ論文試問ヲ通過シタル者ハ大學令第十條ニ依ル學士試驗ニ合格シタルモノトス

第四 在 學

第十條 在學ハ三年ヲ原則トス但シ休學期間ハコレニ算入セス

第五 選 科 生

第十一條 左ノ資格ヲ有スル者及ヒコレト同等以上ノ學力アリト認メラレタル者ハ別ニ定ムルトコロノ規則ニ從ヒ

選科生トシテソノ入學ヲ許可セラルヘシ

一 中等學校卒業者

二 專攻志望科目ニ該當スル中等教員免狀ノ所有者

第六 聽 講 生

第十二條 教授會ノ銓衡ヲ經テ聽講生ノ入學ヲ許可スルコトアルヘシ

聽講生ノ取扱ソノ他ニツキテハ別ニコレヲ定ム

附 則

第十三條 本規程ハ昭和二十一年四月一日ヨリコレヲ施行ス

第十四條 本規程ハ昭和二十年四月以降ニ入學シタル者ニコレヲ適用ス

京都大學文學部規程

(昭和二十四年十二月十九日制定)

第一 學 科

第一條 本學部に哲學科、史學科及び文學科を置く

第二 入 學

第二條 入學者の選抜方法は教授會で定める

第三 授 業

第三條 授業は一般教養科目及び専門科目に分けて行う

第四條 一般教養科目は左の通りとする

人文科學

哲學 倫理學 心理學 社會學 宗教學 藝術學 論理學 教育學
國史學 東洋史學 西洋史學 人文地理學 現代世界史 人類學
文學 國語學 國文學 漢文學 英語 獨語 佛語 露語 中國語

社會科學

法學 政治學 經濟學 統計學 生活科學

自然科學

數學 物理學 化學 生物學 地學 天文學

體 育

諸 規 程

2 一般教養科目の配當及び授業時數は分校の定めるところによる
第五條 専門科目を分けて専攻科目及び副科目とする

2 専攻科目は左の通りとする

哲 學 科

哲學 西洋哲學史 印度哲學史 支那哲學史 心理學 倫理學 教育學教授法 美學美術史 社會學 宗

教學 佛敎學 基督敎學

史 學 科

國史學 東洋史學 西洋史學 考古學 人文地理學

文 學 科

國語學國文學 中國語學中國文學 西洋古典語學西洋古典文學 英語學英文學 獨語學獨文學 佛語學佛

文學 伊太利語學伊太利文學 梵語學梵文學 言語學

3 副科目は每學年の初めに定める

第 四 試 驗

第六條 試験は科目試験及び論文試験とする

2 科目試験の單位及びその數については別に定める

3 論文試験は所定の科目試験に合格した者に對して行う

但し論題は専攻科目の範圍内に限る

第七條 前條の論文は教授會の指定した教官が審査する

第八條 試験實施の期日その他については豫め告知する

第九條 四年以上在學し一般教養科目四十單位、専門科目八十單位（論文を含む）體育四單位以上を取得した者は通則第二十一條に定める學士試験合格者とする

2 一般教養科目の試験については分校の定めるところによる

第五 在 學

第十條 在學は七年を超えることができない

第六 轉學及轉科

第十一條 他の大學生又は本學他學部學生で本學部に轉學を志望する者若くは本學部學生で轉科を志望する者があるときは銓衡の上教授會の議を経て許可することができる

第七 聽 講 生

第十二條 特定の科目につき聽講を志望する者があるときは教授會の銓衡を経て聽講生として入學を許可することがある

2 聽講生の取扱その他については別に定める

附 則

1 この規程は昭和二十四年六月一日から施行する

2 明治三十九年八月十六日制定の文學部規程は廢止する

3 國立學校設置法附則第三項規定の實施に關しては別段の定めをなすまでなお従前の規程による

○昭和二十五年十月二日改正要點

附則第三項を「舊規程による入學者については別段の定めをなさない限りなお舊規程を適用する」に改める。

○昭和二十八年四月七日改正要點

第三條 「一般教養科目」とあるのを「一般教育科目、補助科目(外國語)、體育科目」に改める。

第四條 同様に「一般教養科目」を「一般教育科目、補助科目(外國語)、體育科目」と改め、各科目をつぎのようにする。

一、一般教育科目

人文科學關係

哲學、論理學、倫理學、宗教學、藝術學、國史學、東洋史學、西洋史學、東洋社會思想史、西洋社會思想史
文學、日本文學、言學、國語國文學、漢文學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、史學概論、世界史第一
部、世界史第二部、文化人類學

社會科學關係

法學、日本國憲法、政治學、經濟學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、國史學、東洋史學、西洋史學
東洋社會思想史、西洋社會思想史、社會統計學、史學概論、文化人類學、生活科學

自然科學關係

自然科學、數學、物理學、化學、生物學、地學、近代物理學、天文學、自然人類學、工業概論、生活科學

二、補助科目

英語、獨語、佛語、中國語、露語

三、體育科目

體育生理、體育衛生、體育理論、體育實技

第九條 單位規定を定め、「一般教育科目三十六單位以上（但し人文科學關係、社會科學關係、自然科學關係各十二單位以上）、補助科目十六單位以上（二ヶ國語について各八單位以上）、體育科目四單位以上、専門科目八十四單位以上（論文を含む）を取得した者は」とする。

附則として、「この規程は、昭和二十六年四月一日以降の入學者から適用する」を追加する。

○昭和二十九年五月二十五日改正要點

第三條として、新たに「入學者の決定は、教授會で行う」を加える。

第五條(舊第四條)の一、一般教育科目のうち、人文科學關係科目中の「世界史第一部、世界史第二部」を「世界史」と改め、社會科學關係科目中に「世界史」、自然科學關係科目中に「自然科學史」を加える。

第六條(舊第五條)の2、哲學科専攻科目より「教育學教授法」を除く。

第十條(舊第九條)の2、「分校」を「教養部」に改める。

京都大學文學部規程

(昭和三十年四月五日改正)

第一 學科及び専攻

第一條 本學部におく學科及び専攻は、次のとおりとする。

哲學科

哲學、西洋哲學史、印度哲學史、支那哲學史、心理學、倫理學、美學美術史、社會學、宗教學、佛敎學、
基督敎學

史學科

諸規程

國史學、東洋史學、西洋史學、考古學、人文地理學
文學科

國語學、國文學、中國語學、中國文學、梵語學、梵文學、フランス語學、フランス文學、英語學、英文學、ドイツ語學、ドイツ文學、西洋古典語學、西洋古典文學、イタリア語學、イタリア文學、言語學

第二 入 學

第二條 入學者の選抜方法は、教授會で定める。

第三條 入學者の決定は、教授會で行う。

第三 修 學

第四條 授業は、一般教育科目、外國語、基礎科目、體育科目及び専門科目に分けて行う。

第五條 一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目は、次のとおりとする。

一、一般教育科目

人文科學關係

哲學、論理學、倫理學、宗教學、藝術學、國史學、東洋史學、西洋史學、東洋社會思想史、西洋社會思想史、文學、日本文學、言學、國語國文學、漢文學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、史學概論、世界史、文化人類學

社會科學關係

法學、日本國憲法、政治學、經濟學、社會學、心理學、教育學、人文地理學、國史學、東洋史學、西洋史學、世界史、東洋社會思想史、西洋社會思想史、社會統計學、史學概論、文化人類學、生活科學
自然科學關係

自然科學、自然科學史、數學、物理學、化學、生物學、地學、近代物理學、天文學、自然人類學、工業概論、生活科學

二、外國語

英語、ドイツ語、フランス語、中國語、ロシア語

三、基礎科目

英語、ドイツ語、フランス語

四、體育科目

體育生理、體育衛生、體育理論、體育實技

2 前項各號の科目配當及び授業時間數は、教養部の定めるところによる。

第六條 四年の修學期間を前期二年及び後期二年に分け、一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目は、前期二年に、専門科目は、後期二年に配當する。但し、若干の専門科目を前期二年に配當することがある。

第七條 前期二年において次の單位を修得したものでなければ、後期二年における専門科目を履修することができない。前期二年に配當された専門科目については、この限りでない。

一般教育科目 人文科學關係、社會科學關係、自然科學關係それぞれ十二單位以上、合計三十六單位以上

外國語 第一外國語（英語、ドイツ語、フランス語のうち一）、第二外國語（英語、ドイツ語、フランス語、中國語、ロシア語のうち一）につきそれぞれ八單位以上、合計十六單位以上

基礎科目 第一外國語として選擇した外國語につき更に四單位以上

體育科目 體育講義、體育實技それぞれ二單位以上、合計四單位以上

2 外國語もしくは基礎科目につき一科目に限り二單位以内、體育科目につき二單位以内不足する者は、前項の規

定にかかわらず、後期二年における専門科目を履修することができる。但し、不足単位を後期二年の初年度中に修得しないときは、次年度において専門科目を履修することができない。

第八條 専門科目は、各専攻に屬する講義、研究及び演習とする。

2 前項の科目の外、必要に応じて特定の科目を授業する。

3 専門科目の配當は、専攻ごとに別に定める。

第四 試 験

第九條 試験は、科目試験及び論文試験とする。

2 論文試験は所定の科目試験に合格した者に對して行う。但し、論題は、専攻の範圍内に限る。

第十條 前條の論文は、教授會の指定した教官が審査する。

第十一條 試験實施の期日その他については、豫め告示する。

第十二條 四年以上在學し、第七條第一項に定める單位及び専門科目八十四單位以上（論文を含む）を修得した者は、通則第二十一條に定める學士試験合格者とする。

2 一般教育科目、外國語、基礎科目及び體育科目の試験については、教養部の定めるところによる。

第五 在 學

第十三條 在學は、七年を超えることができない。

第六 轉學及び轉科

第十四條 他の大學學生又は本學他學部學生で、本學部に轉學を志望する者、もしくは本學部學生で轉科を志望する者があるときは、選考の上、教授會の議を経て許可することがある。

第七 聽 講 生

第十五條 特定の科目につき聴講を志望する者があるときは、教授會の選考を経て、聴講生として入學を許可することがある。

2 聴講生の取扱その他については、別に定める。

附 則

この規程は、昭和二十四年六月一日から施行する。

2 明治三十九年八月十六日制定の文學部規程は、廢止する。

3 舊規程による入學者については、別段の定めをなさない限り、なお舊規程を適用する。

附 則

この改正は、昭和二十五年九月二十六日から適用する。

附 則

この規程は、昭和二十六年四月一日以降の入學者から適用する。

附 則

この規程は、昭和二十九年四月一日から施行する。

附 則

この改正は、昭和三十年四月一日から施行する。

昭和三十年三月三十一日以前の入學者については、なお従前の規程による。

京都大學大學院文學研究科規程

(昭和二十八年四月七日制定)

第一 專 攻

第一條 修士、博士の兩課程に、次の專攻を置く。

- 哲 學
- 宗 教 學
- 心 理 學
- 社 會 學
- 美 學
- 國 史 學
- 東 洋 史 學
- 西 洋 史 學
- 地 理 學
- 考 古 學
- 國 語 學 國 文 學
- 中 國 語 學 中 國 文 學
- 梵 語 學 梵 文 學
- フ ラ ン ス 語 學 フ ラ ン ス 文 學

英語學 英米文學

ドイツ語學 ドイツ文學

言語學

第二 入學

第二條 入學手續及び入學者選抜方法は、文學部教授會で定める。

第三條 入學者の決定は、文學部教授會で行う。

第三 轉科

第四條 通則第三十四條により本研究科に轉科を志望する者は、文學部教授會の議を経て許可することがある。

第四 科目及び學修方法

第五條 各専攻に屬する科目は、次の通りとする。

哲學

哲學、倫理學、支那哲學史、印度哲學史、西洋古代哲學史、西洋中世哲學史、西洋近世哲學史

宗教學

宗教學、佛教學、基督教學、宗教史、佛敎史

心理學

實驗心理學、實驗比較心理學、社會心理學

社會學

社會學原論、文化社會學、民俗學

美學

美學美術史、東洋美術、西洋美術

國 史 學

國史學（古代）、國史學（中世）、國史學（近世）

東洋史學

東洋史學（古代）、東洋史學（中世）、東洋史學（近世）

西洋史學

史學理論、西洋史學（古代）、西洋史學（中世）、西洋史學（近世）、

地 理 學

人文地理學、歷史地理學、地誌學

考 古 學

考古學（日本）、考古學（東洋）、人類學

國語學國文學

國語學、國文學

中國語學中國文學

中國語學、中國文學

梵語學梵文學

梵語學、梵文學

フランス語學フランス文學

フランス語學、フランス文學

英語學英米文學

英語學、英米文學

ドイツ語學、ドイツ文學

ドイツ語學、ドイツ文學

言語學

言語學、西洋古典語學、西洋古典文學、イタリア語學、イタリア文學、梵語學、フランス語學、英語學、

ドイツ語學

第六條 前條の科目の外、必要に應じ、特定の科目を授業することがある。

第七條 科目の單位數は、研究科會議で定める。

第八條 科目の配當及び授業時間數は、毎學年の始めに定める。

第九條 各學生につき、指導教授を定める。

2 學生は、學修につき、指導教授の指導を受けなければならない。

第十條 通則第三十七條により他の研究科の科目の學修を志望する者は、指導教授の許可を得て、毎學年の始めに願ひ出でなければならない。

第十一條 修士課程に必要な三十單位の中、各専攻に屬する科目十六單位は、必修とし、爾餘の單位は、指導教授の許可を得て、自由選擇とすることができる。

2 博士課程に必要な二十單位の中、各専攻に屬する科目十二單位は、必修とし、爾餘の單位は、指導教授の許可を得て、自由選擇とすることができる。

第五 試 驗

第十二條 試験は、毎學年の終りに行く。但し、特別の事情があるときは、その時期を變更することがある。

第十三條 試験を受けようとする者は、受験科目を届け出でなければならぬ。

2 前項の届出期日は、豫め告知する。

第六 論文審査

第十四條 研究論文は、研究科會議で定めた教官の調査及び口頭試問の結果にもとづいて、研究科會議で審査する

第十五條 通則第四十條第四項により學位を得ようとする者は、研究論文を提出し、且つ、専攻學術に關し、大學院の博士課程を終えた者と同等以上の學識を有することを確認されなければならない。

第十六條 前條の専攻學術に關する學識の確認は、筆答試問及び口頭試問により行く。但し、研究科會議の議を経て、他の方法によることができる。

2 提出論文の審査は、大學院の博士課程における論文審査と同一の手續による。

第七 外國學生、委託生、聽講生

第十七條 外國學生、委託生及び聽講生として入學を希望する者には、文學部教授會の議を経て、許可することがある。

附 則

この規程は、昭和二十八年四月一日から施行する。

文學部陳列館内規

(昭和三十年四月二十一日制定)
(昭和三十年七月七日改正)

第一條 この内規は、京都大學文學部附屬陳列館（以下「陳列館」という）が、昭和三十年二月十日、博物館法

(昭和二十六年法律第二百八十五號) 附則第四項及び第六項の規定に基き博物館に相當する施設として指定されたについて、同館の運営に關する必要な事項を規定するものである。

第二條 陳列館に主事一名を置く。

2 主事は陳列館に關係の深い教授のうちから、教授會の議を経て學部長が委嘱する。

3 主事の任期は二カ年とする。但し再任を妨げない。

4 主事は陳列館の行う事業を管理し、建築物の防災、秩序維持のため指示を與える。

第三條 陳列館に運営委員七名を置く。

2 運営委員は陳列館に關係の深い教授または助教のうちから、教授會の議を経て學部長が委嘱する。

3 運営委員の任期は二カ年とする。但し再任を妨げない。

4 運営委員は陳列館全般の運営につき主事に協力し、資料の保管についてその責に當る。

第四條 陳列館に研究員若干名を置く。

2 研究員は博物館法に規定された學藝員の職務をも兼ね行ふ。

3 研究員は當分の間文學部教授・助教・講師(常勤のものに限る)のうちから、教授會の議を経て、學部長が委嘱する。

第五條 陳列館に事務員若干名を置く。

2 事務員は文學部助手のうちから、主事・運営委員と協議して學部長が委嘱する。

3 事務員は主事・運営委員及び研究員の指揮を受け、その職務を助ける。

4 事務員のうち一名を主任事務員とする。

主任事務員は、主事と協議して學部長が委嘱する。

第六條 當分の間陳列館の常時公開は行わない。

2 陳列館収集資料の觀覽・調査・研究・撮影・模寫・模造・貸與等につき、希望の時日・物件・目的などを記して申出た者に對しては文學部長は主事と協議して許否を決定する。許可をするとき主事はあらかじめ關係運営委員に連絡し、その同意を得なければならない。

3 外部からの物件の寄託の申出があつた時は、前項の規定に准じて諾否を決定する。

講座表

講座名	講座内容	開設年月日
哲學史 第一講座	哲學史	明治三九・六・四
哲學史 第二講座	印度哲學史	明治三九・六・四
哲學史 第三講座	支那哲學史	明治四二・五・二四
哲學史 第四講座	西洋哲學史(近代)	明治四五・五・二九
哲學史 第五講座	西洋哲學史(近代)	昭和 二・一〇・七
哲學史 第六講座	西洋哲學史(近代)	昭和 二・一〇・七
心理學 講座	心理學	昭和 二・一〇・七
倫理學 講座	倫理學	昭和 三・九・六
美學史 第一講座	美學史	明治三九・六・四
美學史 第二講座	美學史	明治四二・五・二四
宗教學 第一講座	宗教學	昭和三一・四・一
宗教學 第二講座	宗教學	明治四〇・五・九
宗教學 第三講座	基督教學	大正一一・五・三一
社會學 講座	社會學	大正一五・六・一九
社會學 講座	社會學	明治四〇・五・九

國 史 學	第一講座	古 代・中 世	明治四〇・五・九
同	第二講座	近 世	明治四二・五・二四
東 洋 史 學	第一講座	古 代	明治四〇・五・九
同	第二講座	中 世	明治四一・五・一
同	第三講座	近 世・北 方 史	明治四二・五・二四
史 學 地 理 學	第一講座	西 洋 史 學(古 代)	明治四〇・五・九
同	第三講座	同 (中 世・近 代)	明治四二・五・二四
同	第二講座	人 文 地 理 學	明治四〇・五・九
考 古 學 講 座			大 正 五・九・八
國 語 學 國 文 學	第一講座	國 文 學	明治四一・五・一
同	第二講座	國 語 學	大 正 八・六・三〇
中 國 語 學 中 國 文 學	第一講座	中 國 文 學	明治三九・六・四
同	第二講座	中 國 語 學	大 正 八・六・三〇
西 洋 文 學	第一講座	ド イ ツ 語 學 ド イ ツ 文 學	明治四〇・五・九
同	第二講座	英 語 學 英 文 學 第 一	明治四一・五・一
同	第四講座	同 第 二	昭 和 九・七・三
同	第三講座	フ ラ ン ス 語 學 フ ラ ン ス 文 學	大 正 一 四・五・一 八

言語學講座

梵語學梵文學講座

イタリヤ語學イタリヤ文學講座

西洋古典語學西洋古典文學講座

明治四一・五・一

明治四一・五・一

昭和一五・二二・一〇

昭和二八・八・一
(原田積善會寄附金)

出版物目録

明治四四・一〇	文科大學叢書 第一卷	大唐西域記	一部	五册
大正 三・三	同 第二卷	覆元槩古今雜劇三十種	一部	二册
大正 一四・五・七	同 第三卷	梵藏和漢四譯對校翻譯名義大集	一部	二册
同 大正 九・七・二・六	同 第四卷	滿濟准后日記	一部	三册
大正 一〇・三	同 第五卷	源氏物語桐つぼ槇はしら	一帙	二册
大正 一〇・三	同 第六卷	三國遺事	一部	五册
大正 一一・六	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第一集		一部	四册
昭和 一〇・五	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第二集		一部	三册
昭和 一〇・一一	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第三集(文選集注)		一部	五册
昭和 一一・二一	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第四集(文選集注)		一部	三册
昭和 一一・三	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第五集(文選集注)		一部	四册
昭和 一一・三	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第六集(文選集注)		一部	五册
昭和 一一・八	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第七集(文選集注)		一部	四册
昭和 一一・八	京都帝國大學文學部景印舊鈔本第八集(文選集注)		一部	三册

(和裝) 洋裝

昭和一七・六 京都帝國大學文學部景印舊鈔本第九集(文選集注) 一部 三冊

昭和一七・六 京都帝國大學文學部景印舊鈔本第十集(文選集注) 一部 二冊

昭和 八・三 京都帝國大學國史研究室藏史料集 一部 一冊

昭和 一〇・一一 尼崎本萬葉集卷第十六複製本 一部 二冊

昭和 一〇・一一 舊鈔本史記孝景本紀第十一複製本 一部 一冊

大正 六・三 文科大學考古學研究報告第一冊 肥後に於ける裝飾ある古墳及横穴 濱梅原末耕治作

大正 七・七 同 第二冊 河内國府石器時代遺跡發掘報告 濱島原末貞彦作

河内國南高安及び喜志石器時代遺跡調査 濱島原末貞彦作

河内國府肥後轟等にて發掘せる人骨に就て報じ併せて石器時代の住民に及ぶ 鈴木文太郎

大正 八・一〇 同 第三冊 九州に於ける裝飾ある古墳 濱島原末貞彦作

附錄 彌生式土器形式分類圖錄

大正 九・九 同 第四冊 河内國府石器時代遺跡第二回發掘報告 濱田耕作

河内國府石器時代人骨調査 長谷部言人

大正 九・一〇 同 第五冊 備中國淺口郡大嶋村津雲貝塚發掘報告 濱清島田野貞謙次

肥後國宇土郡轟村宮莊貝塚發掘報告 濱柳原政職作

大正一〇・一一 同

第六册 薩摩國出水郡出水町尾崎貝塚調査報告

濱田耕彦
長谷部言人
島田貞彦

大正一二・六 同

第七册 攝津高槻在東氏所藏の吉利支丹遺物

新村出

京都及其附近發見の切支丹墓碑

新村出

切支丹教名合字鞍及南蠻人繪鞍に就て
附録 日本發見銅鏃銅劍及銅鉞表

濱田耕彦

大正一二・一一 同

第八册 近江國高島郡水尾村鴨の古墳
附録 日本發見金製耳飾刀劍環頭及鹿角製刀劍裝具集成表

濱田耕彦

大正一四・八 同

第九册 豐後磨崖石佛研究

濱田耕彦

昭和二・三 同

第十册 出雲上代玉作遺跡の研究
附表 日本及朝鮮發見勾玉類比重測定表
附録 日本發見磨製石鏃及石劍集成

濱田耕彦
島田貞彦
梅原末治

昭和五・八 同

第十一册 筑前須玖史前遺跡の研究
附録 青柳種信著筑前國怡土郡三雲村古器圖說

島田貞彦
梅原末治

昭和八・三 同

第十二册 讚岐高松石清尾山石塚の研究

梅原末治

昭和九・九 同

第十三册 新羅古瓦の研究

濱田耕彦
梅原末治

昭和一二・一〇 同

第十四册 大和島庄石舞臺の巨石古墳

附録 石舞臺古墳の巨石運搬並に其の築造法
附録 日本古墳巨大石室聚成日本方形古墳聚成

高橋逸夫
梅原末治

- 昭和一五・三 同 第十五册 筑前國嘉穂郡王塚裝飾古墳
- 昭和一八・三 同 第十六册 大和唐古彌生式遺跡の研究
- 大正一一・一二 初版
昭和三・一一 再版
昭和五・三 三版
京都帝國大學文學部考古圖錄 一部 一册
- 昭和一〇・三 京都帝國大學文學部考古圖錄續編 一部 一册
- 昭和二六・三 京都大學文學部陳列館考古圖錄新輯 一部 一册
- 昭和一八・三 考古學資料叢刊 第一册 漢三國六朝紀年鏡 梅原末治
- 昭和一一・三 同 第二册 支那漢代紀年銘漆器圖說 梅原末治
- 昭和二三・一〇 同 第三册 唐鏡大觀 梅原末治
- 昭和三〇・七 同 第四册 支那古玉圖錄 梅原末治
- 昭和二八・九 考古學叢書 第一册 法隆寺建築綜觀 淺野清
- 昭和一二・三 京都帝國大學文學部地理學研究報告 第一册
- 昭和一三・三 京都帝國大學文學部地理學研究報告 第二册
- 昭和二七・三 慶陵 圖版册 田村實造
- 昭和二八・三 慶陵 本文册 田村實造
- 昭和二九・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第一卷 (蒙古篇一)

- 昭和三〇・一 明代滿蒙史料明實錄抄 第二卷 (蒙古篇二)
- 昭和二九・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第三卷 (滿洲篇一)
- 昭和三〇・二 明代滿蒙史料明實錄抄 第四卷 (滿洲篇二)
- 昭和三〇・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第五卷 (蒙古篇三)
- 昭和三一・一 明代滿蒙史料明實錄抄 第六卷 (滿洲篇三)
- 昭和三一・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第七卷 (蒙古篇四)
- 昭和三一・三 明代滿蒙史料明實錄抄 第八卷 (滿洲篇四)

昭和一〇・一一 京都帝國大學文學部三十周年史

昭和一六・四 紀元二千六百年記念史學論文集

昭和二七・三 文學部研究紀要 第一 唐天寶時代の河西道邊防軍に關する經濟史料學童の生活時間に關する調査

昭和二八・三 文學部研究紀要 第二 Denton, J. (1917) 華夷譯語八百館雜字並に來文の研究

昭和二九・三 文學部研究紀要 第三 生野銀山史の研究 性格自己診斷検査の作製

一部 一冊
 一部 一冊
 那波利貞
 園原太郎他教員
 山内得立
 泉井久之助
 小葉田
 矢田部達郎

現 職 員

名 譽 教 授

東洋史學	大正元・九・二六助教授 大正九・二・六教授 昭和七・五・三退職 昭和七・七・一名譽教授	文學博士	矢野仁一
言語學	明治四〇・一・二五助教授 明治四二・五・一七教授 昭和一・二・〇・一九退職 昭和二・二・六名譽教授	文學博士	新村出
支那語學	明治四一・二・二五助教授 大正八・七・三一教授 昭和一・三・一・三一退職 昭和一・三・五・四名譽教授	文學博士	鈴木虎雄
支那文學	明治四一・一・一〇・三〇講師 明治四四・九・一助教授 大正六・九・二八教授 昭和一七・五・二〇退職 昭和一七・八・一三名譽教授	文學博士	野上俊夫
心理學	大正一・八・一一助教授 昭和六・三・三一教授 昭和一・二・二四退職 昭和一七・一〇・二八名譽教授	文學博士	小島祐馬
支那哲學史	大正八・八・一八助教授 昭和二・一・一四教授 昭和二〇・三・七退職 昭和二・三・一三名譽教授	文學博士	田邊元
哲學	明治四一・九・一〇講師 大正八・八・三〇助教授(兼) 大正九・四・三〇助教授 昭和五・一・〇・三〇教授 昭和二〇・四・二六退職 昭和二・三・一三名譽教授	文學博士	成瀨清
獨逸文學	大正八・七・二六講師 大正一・一・二・二四助教授 昭和二・一・二六轉任 昭和三・七・四講師 昭和四・四・一五助教授 昭和七・五・五教授 昭和二・七・三退職 昭和二・一・八・三一講師 昭和二・三・三一解囑 昭和二・一・一六名譽教授	文學博士	植田壽藏
美學美術史	大正九・七・一〇講師 大正九・一・一八助教授 昭和六・三・三一教授 昭和二・一・三・三〇退職 昭和二・二・二七名譽教授	文學博士	田中秀央
西洋古典文學	大正一・五・八・一九助教授 昭和六・三・三一教授 昭和二・一・六退職 昭和二・三・九・二二名譽教授	文學博士	天野貞祐

現 職 員

佛蘭西文學	大正一〇・二〇・二八助教授 昭和八・三・三一教授 昭和二四・五・二二退職 昭和二五・九・二六名譽教授	文學博士	太宰施門
英文學	大正一二・一二・一三〇講師 大正一三・三・二七助教授 昭和九・七・四教授 昭和二六・三・三一退職 昭和二六・四・二六名譽教授	文學博士	石田憲次
國語學	大正一一・八・一一助教授 昭和一一・九・七教授 昭和二六・三・三一退職 昭和二六・四・二六名譽教授 昭和二七・三・三一講師解囑 昭和二六・四・二六名譽教授	文學博士	澤瀉久孝
國史學	大正四・九・一講師 大正八・六・一二助教授 大正一三・九・二九教授 昭和二・七・三二退職 昭和二七・二・九名譽教授 昭和四・四・三〇講師 昭和六・四・二教授(兼) 昭和一八・一二・一教授 昭和二八・四・一退職 昭和二八年度講師 昭和二八・六・一五名譽教授	文學博士	山內得立
哲學	昭和三・四・一講師 昭和四・四・一助教授 昭和一三・三・三一教授 昭和二八・八・一退職 昭和二八・九・一七名譽教授 昭和四・四・二四講師 昭和八・六・六助教授 昭和一四・七・三一教授 昭和三一・八・一三退職 昭和三一・八・一三名譽教授	文學博士	那波利貞
東洋史學	昭和三一・八・一一就任	文學博士	梅原末治
考古學		文學博士	吉川幸次郎
學部長		教授	
史學地理學	昭和五・七・五助教授 昭和八・五・一一教授	文學博士	原隨園
第一講學	昭和六・三・三一講師 昭和九・一二・一〇助教授 昭和一九・五・二三教授	文學博士	宮崎市定
東洋史學		文學博士	矢田部達郎
第二講學		文學博士	
心理學講座		文學博士	

社會學講座	昭和三・四・四講師 一三教授	昭和七・七・一助教授	昭和一九・九・	文學博士	白井二尙
倫理學講座	昭和一一・三・三一講師 一・三・八教授	昭和一二・六・三・三一助教授	昭和一二	文學博士	島芳大
美學美術史講座	昭和一二・三・三一講師 二・四・一教授	昭和一二・八・五・一四助教授	昭和一二	文學博士	井島勉
言語學講座	昭和六・三・三一講師 二・四・三〇教授	昭和一一・一・〇・一五助教授	昭和一二	文學博士	泉井久之助
東洋史學	昭和一二・三・三一講師 五・三一教授	昭和一二・五・六・五助教授	昭和一二	文學博士	田村實造
中國語學中國文學第一講座	昭和六・一・二講師	昭和一二・八年度講師	昭和一二・六・六助教授	文學博士	吉川幸次郎
史學地理學	昭和一一・〇年度・一二年度・一二年度・一四年度以降講師 一・八・五・一四助教授	昭和一二・三・六・一七助教授	昭和一二	文學博士	井上智勇
宗敎	昭和一二・五・三一講師	昭和一二・三・一〇・一五助教授		文學博士	有賀鐵太郎
西洋文學	昭和九・三・三一講師 二・二・八教授	昭和一二・三・三一助教授	昭和一二・四・	文學博士	中西信太郎
國語學國文學	昭和一一・〇・三・三一講師 四・四・一一教授	昭和一二・四・三・三一助教授	昭和一二	文學博士	遠藤嘉基
國史	昭和一二年度講師	昭和一二・四・一一・三〇助教授		文學博士	小葉田淳
哲學哲學史	昭和一二・三・七・一〇助教授	昭和一二・五・二・一五助教授		文學博士	田中美知太郎
哲學哲學史	昭和一二・一・一・三〇助教授	昭和一二・五・二・一五助教授		文學博士	高田三郎
梵語學	昭和一二・五・三・三一講師 三・三一教授	昭和一二・七・三・三一助教授	昭和一二・五・	文學博士	足利惇氏

西洋文學 第一講座	昭和一五・三・三一講師 五・三・三一教授	昭和二一・二・一五助教	昭和二	大山定一
哲學哲學史 第三講座	昭和一四年度・一六年度講師 昭和二五・四・五教授	昭和一七・三・三一助教	昭和二	重澤俊郎
西洋文學 第三講座	昭和九年度以降講師 四・二〇教授	昭和二四年度授業擔當	昭和二五・	伊吹武彥
中國語學中國 文學第二講座	昭和二三年度以降講師	昭和二五・七・三一教授	昭和二	小川環樹
史學地理學 第二講座	昭和二一・二・二八講師 五・二・九教授	昭和二三・三・一四助教	昭和二	織田武雄
宗教學 第三講座	昭和一三年度・一四年度・一八年度・二一年度以降講師 二四年度授業擔當 三・一六教授	昭和一五・二・二八助教	昭和二六・	長尾雅人
國語學國文學 第一講座	昭和一二年度・一五年度講師 昭和二六・一・一六教授	昭和二四・五・二〇助教	昭和二	野間光辰
宗教學 第一講座	昭和一一・〇・三・三一助教 一・二・二六休職 一教授	昭和一二・七・三〇退職 昭和一二・二・	昭和二	西谷啓治
哲學哲學史 第四講座	昭和一二・六・三・三一講師 五・三一助教	昭和一七・九・三〇解囑	昭和二二・	野田又夫
哲學哲學史 第二講座	昭和一一・八・九・三〇講師 八・七・一六教授	昭和二三・五・二八助教	昭和二	松尾義海
國史學 第二講座	昭和一九年度・二〇年度・二一年度・二四年度以降講師 二六・八・一六助教	昭和二八・一〇・一教授	昭和	赤松俊秀
心理學	昭和二三・三・三一講師 八・二〇・一教授	昭和二〇・一・一二助教	昭和二	園原太郎
哲學哲學史 第一講座	昭和二三・三・三一講師	昭和二九・四・一教授	昭和二	三宅剛一

イタリヤ語學
講

昭和二・三・三一 講師
九・〇・一 教授

昭和二二・五・二〇 助教授

昭和二

野上素一

助 教 授

西洋古典語學
西洋古典文學

昭和一六・三・三一 講師

昭和二二・四・三〇 助教授

松平千秋

宗 教 學

昭和一七年度 講師
三一 助教授

昭和二一・三・三一 講師

昭和二三・八・

武内義範

東 洋 史 學

昭和二四・五・一〇 助教授

佐伯 富

英 語 學

昭和二六・六・一 助教授

御 與 員 三

西 洋 史 學

昭和一二年度以降 講師
二七・四・一 助教授

昭和二四年度以降 授業擔當

昭和

前川貞次 郎

考 古 學

昭和二五・三・三一 專任講師

昭和二七・二・一 助教授

文學博士

有 光 教 一

英 語 學

昭和二六年度 授業擔當

昭和二八・五・一 助教授

菅 泰 男

東 洋 史 學

昭和二五・六・三〇 講師

昭和二九・七・一六 助教授

佐 藤 長

社 會 學

昭和二九・九・一 助教授

池 田 義 祐

心 理 學

昭和二八年度以降 授業擔當

昭和三〇・七・一 助教授

柿 崎 祐 一

國 語 學

昭和二六年度 講師
一 助教授

昭和二八年度以降 講師

昭和三一・五・

濱 田 敦

講 師

現 職 員

三六九

梵文	昭和一六・三・三一講師	昭和二四・六・一専任講師	文學博士	伊藤義教
梵文	昭和一九・九・三〇講師	昭和二一・三・三一解囑	善波	周
ドイツ語	六・三〇講師	昭和二四・六・一専任講師	三浦アノナ	
ドイツ語	昭和七・三・三二講師	昭和二四・六・一専任講師	本吉良治	
ドイツ語	八・三一教養部勤務	昭和二五・五・三一教養部より轉	小林行雄	
心理學	昭和二七・七・一専任講師		越智武臣	
考古學	昭和二三年度・二四年度授業擔當	昭和二八・四・一六専任講師		
西洋史學	昭和三一・四・一専任講師			

授 業 擔 當

國語	昭和一九・九・二〇—二三(講師)	昭和二四—三一	池上禎造
東洋史學	昭和二三—二四(講師)	昭和二四—三一	羽田明
ドイツ語	昭和二三—二四(講師)	昭和二四—三一	古松貞一
社會學	昭和二三(講師)	昭和二四—三一	姫岡勤
フランス語	昭和二四—三一		生島遼一
人文地理學	昭和二三—二四(講師)	昭和二四—三一	藤岡謙二郎
國史學	昭和一一—一二・八(講師)	昭和二五—三一	柴田實
心理學	昭和二五・一〇—三一		佐藤幸治
西洋史學	昭和六(講師)	昭和二六—三一	中原與茂九郎

英文學	昭和二六―三一	教養部教授	小林象二
美學美術史	昭和一八・二〇―二四・五(講師) 昭和二四・六―二五(專講) 昭和二六―三一	教養部教授	上野照夫
社會學	昭和二五(講師) 昭和二六―三一	教養部教授	江藤則義
英文語學	昭和二五・二〇 昭和二七―三一	教養部教授	村上至孝
英文語學	昭和二七―三一	教養部教授	池田義一郎
英文語學	昭和七―九(講師) 昭和二六―二八 昭和三〇―三一	教養部教授	山本修二
英文語學	昭和二五・二〇―二八 昭和三〇―三一	教養部教授	宮西光雄
フランス語學	昭和二六―三一	教養部教授	田中俊一
西洋哲學史	昭和二四 昭和三一	教養部教授	田村松平
ドイツ語學	昭和三一	教養部教授	若林光夫
佛敎學	昭和一五―一六(講師) 昭和二五―三一	人文科學研究所 教授文學博士	塚本善隆
フランス文學	昭和六―一六(講師) 昭和二五―三一	人文科學研究所 教授	桑原武夫
考古學	昭和二七―三一	人文科學研究所 教授	長廣敏雄
人文地理學	昭和一二(講師) 昭和二八―三一	人文科學研究所 教授	森鹿三
東洋史學	昭和一二(講師) 昭和二八―三一 昭和一三―一四(講師) 昭和一五、一八、二九―三一	人文科學研究所 教授	安部健夫

考古學	昭和一一・一九(講師)	昭和二四―二六、三一	人文科學研究所	水野清一
哲學	昭和一六―二一前	昭和三一	教育學部教授	高坂正顯
ドイツ文學	昭和二四―三一		文學博士	谷友幸
フランス文學	昭和二一―二三(講師)	昭和二四―三一	教養部助教授	本城格
ドイツ文學	昭和二四―三一		教養部助教授	高安國世
フランス文學	昭和一一・一二・一四・一五(講師)	昭和二四・六―二四・八(專講)	教養部助教授	林憲一郎
フランス文學	昭和二四・九―三一		教養部助教授	保田清
倫理學	昭和二四―二五・五(講師)	昭和二五・五―二六・四(專講)	教養部助教授	武藤一雄
宗教學	昭和二四―三一		教養部助教授	渡邊明正
フランス文學	昭和二五・一〇―三一		教養部助教授	後藤敏雄
フランス文學	昭和二六―三一		教養部助教授	阪倉篤義
國語學	昭和二五・二〇	昭和二七―三一	教養部助教授	西村睦男
人文地理學	昭和二八―三一		教養部助教授	鹽谷饒
ドイツ文學	昭和二七・五―三〇・四(專講)	昭和三〇―三一	教養部助教授	豐田堯
西洋史學	昭和二四―二五、昭和二七―二九、昭和三一		教養部助教授	石川敬二
ドイツ文學	昭和八・九―二三(講師)	昭和三一	教養部助教授	

ドイツ文學 昭和二六、昭和三一
 英文語學 昭和二七、昭和三一
 英文語學 昭和三一
 美學美術史 昭和三一
 國史學 昭和三一
 ロシア語 昭和二五―三一
 中國語學 昭和二五・六―二六・四(專講) 昭和二六―三一
 中國文學 昭和二五・六―二六・四(專講) 昭和二六―三一
 東洋史學 昭和三一
 社會學 昭和二七―三一
 人文地理學 昭和二九―三一
 フランス語 昭和三一
 佛敎學 昭和二四、昭和三一

講師 (非常勤)

スペイン語 昭和一七―三一
 印度哲學史 昭和一八、昭和二三―三一

田川基三 教養部助教授
 川田周雄 教養部助教授
 森清 教養部助教授
 梶野胤 教養部助教授
 岸俊男 教養部助教授
 植野修司 教養部助教授
 田中謙二 人文科學研究所 助教授
 島田虔次 人文科學研究所 助教授
 渡邊洋二 教育學部助教授
 日比野丈夫 人文科學研究所 講師
 多田道太郎 人文科學研究所 助手
 藤吉慈海 人文科學研究所 助手

大阪外國語大學 助教授 國澤慶一
 大阪大學 教授 佐保田鶴治
 文學博士

アラビア語	昭和二三―三一	關西大學講師	藤本勝次
宗 教 學	昭和二五―三一	龍谷大學教授	棚瀬襄爾
佛書講讀	昭和二五・二〇―三一		樋口隆康
心 理 學	昭和二六―三一	關西學院大學教授	今田惠
國 史 學	昭和六、一一、一三、一五、一七後 昭和二六―三一 昭和二二―二四	同志社大學教授 大阪外國語大學講師	三品彰英
イタリヤ語學	昭和二六・九―三一	大阪外國語大學講師	宮本幸三郎
西洋古典語學			
西洋古典文學	昭和二七―三一	神戶商科大學助教授	鈴木照雄
ギリシヤ語	昭和二七―三一	立命館大學教授	林屋辰三郎
國 史 學		大阪外國語大學教授	澤英三
梵語學梵文學	昭和二七―三一	大阪市立大學講師	山田晶
言 語 學			
西洋古典語學	昭和二八―三一	大阪市立大學教授	山上琢彌
西洋古典文學			
ラテン語	昭和二八―三一	京都國立博物館館長文學博士	神田喜一郎
國 文 學			
中國語學	昭和一一四、昭和二八―三一	神戶大學教授	山本忠雄
中國文學			
英 文 學	昭和二八―三一	神戶大學博士	山本忠雄
英語學			
西洋古典語學	昭和二九―三一	神戶大學助教授	小川政恭
西洋古典文學			
國 語 學	昭和二六、昭和二九―三一	大阪市立大學教授	小島憲之

西洋古典語學 昭和二九—三一
 西洋古典文學 昭和二九—三一
 ラテン語
 哲學 昭和二七—二八、昭和三〇—三一
 支那哲學史 昭和三〇—三一
 支那哲學史 昭和三〇—三一
 支那哲學史 昭和三〇—三一
 西洋哲學史 昭和一四—一六、昭和一八、昭和三〇—三一
 倫理學 昭和二六—二七、昭和三〇—三一
 基督教學 昭和一二—一七、昭和三〇—三一
 中國語學 昭和三〇—三一
 中國文學 昭和三〇—三一
 西洋古典語學 昭和三〇—三一
 西洋古典文學 昭和三〇—三一
 イタリア文學 昭和三〇—三一
 イタリア文學 昭和三〇—三一
 梵語學 昭和三〇—三一
 梵語學 昭和三〇—三一
 西洋哲學史 昭和二三・九、昭和二九—三一
 英語學 昭和二三・二六、昭和二八—三一
 英語學 昭和二三・二六、昭和二八—三一
 フランス文學 昭和二八—三一
 フランス文學 昭和二八—三一
 英語學 昭和二七—三一
 英語學 昭和二七—三一

現職員

西京大學講師 中村善也
 大阪市立大學講師 森口美都男
 大阪市立大學助教 本田濟
 愛知學藝大學講師 福永光司
 奈良女子大學教授 服部英次郎
 大阪大學助教 岸畑豐
 關西學院大學教授 松村克己
 立命館大學教授 高木正一
 神戸大學教授 岡田正三
 神戸市外國語大學講師 林一郎
 Vincent Pouliot
 John Charles Murrett
 Jean-Pierre Hauchecorne
 Robert H. Grant

イタリア語學 昭和二九—三一
イタリア文學

Alexander Bencivenni

中國語學 昭和二九—三一
中國文學

徐 新 元

言語學 昭和三〇—三一

鄭 寅 燮

社會學 昭和三一

Julian H. Steward

哲學 昭和三〇—三一

Gerhard Knauss

英語學 昭和三〇・二一—三一
英文學

神戶大學教授 工 藤 好 美

哲學 昭和一一—一五、昭和二七・九—一九・九、昭和二二・五、昭和
二七—二九、昭和三一

大阪大學教授 澤 瀉 久 敬

西洋哲學史 昭和三一

西京大學助教授 藤 澤 令 次

心理學 昭和三一

關西大學講師 廣 田 君 美

心理學 昭和三一

奈良女子大學 辻 岡 美 延

心理學 昭和三一

助教 岩 原 信 九 郎

美學美術史 昭和二八—二九、昭和三一

京都工藝纖維 河 本 敦 大

社會學 昭和三一

神戶大學講師 杉 之 原 壽 大

國史學 昭和三一

大阪大學助教授 梅 溪 昇

西洋史學 昭和三一

奈良女子大學 岡 部 健 彦

人文地理學 昭和二一・二〇—二九、昭和三一

教授 立命館大學 惟 子 二 郎

人文地理學 昭和一一—二一、昭和二一

立命館大學教授 野 間 三 郎

人文地理學	昭和三一
中國語	昭和三一
言語學	昭和三一
ドイツ語	昭和三一
基督教學	昭和三一
美學美術史	昭和二五—二六、昭和二八—三一
美學美術史	昭和三〇—三一
印度哲學史	昭和三〇・一〇—三一
支那哲學史	昭和三一
考古學	昭和三一
中國語學	昭和三一
中國文學	昭和三一
西洋古典語學	昭和二七、昭和三一
西洋古典文學	昭和二七、昭和三一
言語學	昭和二七、昭和三一
東洋史學	昭和三一
國語學	昭和三一
國文學	昭和三一
基督教學	昭和三一
英語學	昭和三一
英文學	昭和三一

現職員

小野三正	廣島大學助教授
清水雄二郎	東京大學助教授
西田龍雄	東京藝術大學教授
大城功	大阪市立大學助教授
神崎大六郎	東京大學教授
吉川逸治	東京藝術大學教授
新規矩男	東京藝術大學教授
中野義照	高野山大學教授
湯淺幸孫	山口大學助教授
山內清男	東京大學講師
斯波六郎	廣島大學教授
關本至	廣島大學助教授
曾我部靜雄	東北大學教授
鹽田良平	文藝學博士
淺野順	大正大學教授
	青山學院大學教授

Norman F. Nelson

三七七

英 文 學

昭和三一

助 手

東 洋 史 學

昭和二一・六・三〇助手

國 語 學

昭和二三・五・三一副手

昭和二四・六・一助手

考 古 學

昭和二三・四・三〇副手

昭和二六・七・一助手

フ ラ ン ス 語 學

昭和二八・四・一六助手

英 文 學

昭和二八・四・一六助手

イ タ リ ア 語 學

昭和二八・五・一六助手

言 語 學

昭和二八・五・一六助手

梵 語 學

昭和二九・二・一助手

國 史 學

昭和二九・一〇・一助手

人 文 地 理 學

昭和三〇・四・一六助手

社 會 學

昭和三〇・五・一助手

美 學 美 術 史

昭和三〇・六・一助手

哲 學

昭和三一・四・一〇助手

心 理 學

昭和三一・四・一六助手

三七八
Anthony S. Thwaite

里 井 彦 七 郎

柀 源 一

横 山 浩 一

大 橋 保 六

中 沼 了

池 田 廉

井 本 英 一

門 脇 禎 二

末 尾 至 行

益 田 庄 二

吉 岡 健 二 郎

酒 井 修

木 下 富 雄

梶 山 雄 一

考 古 學 昭和三一・四・一六助手 西 谷 眞 治
 西 洋 哲 學 史 昭和三一・四・二〇助手 日 下 昭 夫
 ドイツ語學 昭和三一・五・一助手 林 功 三
 西 洋 史 學 昭和三一・四・一講師 加 藤 一 朗
 西 洋 古 典 語 學 昭和三一・七・一六助手 柳 沼 重 剛
 西 洋 古 典 文 學 昭和三一・七・一六助手

事 務 官

事 務 長 昭和二九・七・一五事務長 城 田 榮 一
 昭和一九・一〇・七囑託 昭和二三・四・一技術補佐員 高 橋 猪 之 介
 二四・六・一事務官 昭和二〇・八・一教官 村 橋 瑠 璃 嬰
 昭和一九・一二・三一雇 昭和一九・九・三〇囑託 昭和三三・
 一六教官 昭和二四・六・一事務官 昭和二九・八・
 昭和一九・一二・五雇 昭和二三・四・三〇囑託 昭和三三・
 四・事務補佐員 昭和二四・六・一事務官 寺 本 玲 子
 昭和二〇・七・三一助手 昭和二一・一・三一書記(兼) 昭和三
 二・四・一事務官(兼) 昭和二四・六・一事務官 木 村 治 雄
 昭和二一・六・三〇囑託 昭和二二・一・二一〇教官 昭和二
 三・五・一五事務官(兼) 昭和二三・九・八六事務官 谷 口 寛 一 郎
 昭和二三・六・三〇雇 昭和二三・九・八囑託 昭和二三・四
 ・二事務補佐員 昭和二四・四・三〇事務官 戸 田 正 義
 昭和二三・九・三〇囑託 昭和二三・四・一事務補佐員 昭和三
 二・四・六・一事務官 昭和一九・五・五・三・一書記 昭和二一・
 四・一事務官 昭和二三・一・一五文學部 昭和二九・一・一・
 五休職 昭和三〇・五・五復職 昭和二一・一・一・

圖 書 室 長 昭和二三・九・八六事務官 昭和三三・四
 昭和二三・六・三〇雇 昭和二三・九・八囑託 昭和二三・四
 ・二事務補佐員 昭和二四・四・三〇事務官 戸 田 正 義
 昭和二三・九・三〇囑託 昭和二三・四・一事務補佐員 昭和三
 二・四・六・一事務官 昭和一九・五・五・三・一書記 昭和二一・
 四・一事務官 昭和二三・一・一五文學部 昭和二九・一・一・
 五休職 昭和三〇・五・五復職 昭和二一・一・一・

教 務 掛 長 昭和二三・九・八六事務官 昭和三三・四
 昭和二三・六・三〇雇 昭和二三・九・八囑託 昭和二三・四
 ・二事務補佐員 昭和二四・四・三〇事務官 戸 田 正 義
 昭和二三・九・三〇囑託 昭和二三・四・一事務補佐員 昭和三
 二・四・六・一事務官 昭和一九・五・五・三・一書記 昭和二一・
 四・一事務官 昭和二三・一・一五文學部 昭和二九・一・一・
 五休職 昭和三〇・五・五復職 昭和二一・一・一・

現 職 員

附 錄

會計掛長

昭和二三・一二・六履
五二文學部
昭和二三・二・一五履

昭和二一・四・一事務官
昭和三〇・一・一六教官

昭和二七・
同日文學部

三八〇

松 井 重 治
佐 々 木 邦 彦

舊 職 員

學長・學部長

明治三九・七・五——明治四一・一〇・二一	文學博士	狩野亨吉
明治四一・一〇・二一——大正五・五・二五	文學博士	松本文三郎
大正五・五・二五——大正八・七・二八	文學博士	藤代禎輔
大正八・七・二八——大正一一・四・二六	文學博士	狩野直喜
大正一一・四・二六——大正一三・一・一四 (死七)	文學博士	原勝郎
大正一三・一・一四(事務取扱)——大正一三・一・二四——昭和二・四・五	文學博士	坂口昂
昭和二・四・五——昭和四・四・一	文學博士	小西重直
昭和四・四・一——昭和五・一〇・七	文學博士	藤井健次郎
昭和五・一〇・七——昭和七・二〇・七	文學博士	濱田耕作
昭和七・二〇・七——昭和九・一〇・八	文學博士	羽田亨
昭和九・一〇・八——昭和一一・一〇・八	文學博士	野上俊夫
昭和一一・一〇・八——昭和一三・一一・一〇	文學博士	小島祐馬
昭和一三・一一・一〇——昭和一五・一一・二一	文學博士	西田直二郎
昭和一五・一一・二一——昭和一七・一一・二一	文學博士	成瀬清

昭和十七・二一・二一——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

昭和二十・二一・二一〇——昭和二十・二一・二一〇

教 授

倫 理 學 明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 明治四〇・二・二一退職 昭和十七・二・二二死亡 明治四

教育學教授法 明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 大正二・八・五退職 昭和二十・二・二一死亡

支那語學 明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・五教授 昭和二十・二・二九退職 昭和二十・四・六名譽教授 昭和二十・二・三死亡

印度哲學史 明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・二六教授 昭和二十・四・五退職 昭和四・八・一名譽教授 昭和一九・二・一八死亡

西洋哲學史 明治三九・四・一一開設委員 明治三九・七・二八教授 大正三・七・三一轉任 昭和二十・二・一五死亡

心理學 明治三九・七・二八教授 大正二・七・二六轉任 昭和一八・一二・二四死亡

國 史 明治三九・八・三教授(兼) 明治四〇・五・三教授 大正八・七・二二死亡

文學博士	落合太郎
文學博士	本田義英
文學博士	原隨園
文學博士	宮崎市定
文學博士	白井二尚
文學博士	原隨園
文學博士	高田三郎
文學博士	狩野亨吉
文學博士	谷本富
文學博士	狩野直喜
文學博士	松本文三郎
文學博士	桑木嚴翼
文學博士	松本亦太郎
文學博士	內田銀藏

獨逸文學	明治四〇・八・一三教授 昭和二・四・一八死亡	文學博士	藤代禎輔
地理學	明治四一・五・二二教授 昭和一〇・一二・一九理學部に轉 昭和五・八・二五名譽教授 昭和一六・二・一五死亡	理學博士	小川琢治
西洋史	明治四二・三・二〇教授 大正一三・一・一四死亡	文學博士	原勝郎
東洋史	明治四二・四・九教授 昭和一五・二・二四退職 昭和六・二・五名譽教授 昭和六・五・二三死亡	文學博士	桑原隲藏
英文學	明治四一・一・六講師 明治四二・五・一七教授 大正五・七・二一死亡	文學博士	上田敏
國史	明治四〇・五・一〇國史資料蒐集囑託 明治四〇・八・一二講師 昭和一・二・二五教授 昭和六・七・一五退職 昭和六・七・二〇名譽教授 昭和六・九・六死亡	文學博士	三浦周行
東洋史	明治四〇・一・一六講師 明治四二・九・一〇教授 大正一五・八・三〇退職 昭和二・四・三〇講師 昭和三・七・一六名譽教授 昭和五・一・一七講師解囑 昭和九・六・二六死亡	文學博士	內藤虎次郎
梵文語學	明治四〇・一・二五助教授 明治四三・五・五教授 昭和二・八・二四死亡 昭和七・六・六名譽教授	文學博士	榊亮三郎
美學美術史	明治四三・一・七教授 昭和三・一・一二死亡	文學博士	深田康算
國語學	明治四二・一・一八講師 明治四四・九・一教授 昭和三・八・一八退職 昭和三・二・二一名譽教授 昭和二〇・五・二三死亡	文學博士	藤井乙男
西洋史	明治四〇・四・五助教授 明治四五・一・二七教授 昭和三・一・二八死亡	文學博士	坂口昂
西洋哲學史	明治四〇・七・一七助教授 大正二・一・二三教授 昭和六・三・二〇退職 昭和六・四・二五名譽教授 昭和二六・九・一八死亡	文學博士	朝永三十郎
教育學教授法	大正二・八・四教授 昭和八・三・二二總長就任 昭和八・六・三〇退職 昭和八・一・二八名譽教授 昭和三三・七・二一死亡	文學博士	小西重直
哲學	明治四三・八・三一助教授 大正二・八・一二教授 昭和三・九・二九退職 昭和四・二・一名譽教授 昭和二〇・六・七七死亡	文學博士	西田幾多郎

舊職員員

倫理學	大正二・八・一三教授 昭和六・一・一八死亡	文學博士 藤井健治郎
支那哲學史	明治四〇・七・一七助教授 大正四・四・七教授 昭和四・一・二一退職 昭和四・四・二〇名譽教授 昭和五・二・九九死亡	文學博士 高瀨武次郎
考古學	明治四二・九・三講師 大正二・三・二一助教授 大正六・九・二八教授 昭和一二・六・三〇總長就任 昭和一三・七・二五死亡	文學博士 濱田耕作
宗敎學	大正六・一二・四教授 昭和一二・七・三一退職 昭和一二・一一・一名譽教授 昭和二五・一・一七死亡	文學博士 波多野精一
英文學	明治三九・八・二四助教授 明治四一・六・三〇轉任 明治四二・九・一講師 明治四三・七・二五助教授 大正元・九・四轉任 大正元・九・一助教授(兼) 大正七・七・一三教授(兼) 大正一〇・三・三一退職同日講師 昭和六・三・三一講師解囑 昭和二〇・一〇・一〇死亡	文學博士 島文治郎
英文學	大正二・九・五講師 大正六・五・一四助教授 大正八・六・一二教授 大正一二・九・一死亡	文學博士 厨川辰夫
國語學	明治四一・五・一一助教授 大正八・七・三一教授 昭和一一・八・三一退職 昭和一二・〇・二五名譽教授 昭和二九・一・五死亡	文學博士 吉澤義則
地理學	明治四〇・一〇・二六助教授(兼) 大正八・九・一教授(兼) 大正一一・八・一六教授 昭和一一・三・三一退職 昭和一一・九・二一名譽教授 昭和一二・四・一九死亡	文學博士 石橋五郎
國史	明治四一・二・二五講師 大正九・七・五教授 大正一三・九・二九退職 大正一四・四・一講師 昭和一一・四・七・二死亡	文學博士 喜田貞吉
社會學	明治四〇・九・一講師 大正九・七・五教授 大正一四・三・三一退職 昭和二〇・一・二一八死亡	文學博士 米田庄太郎
東洋史	明治四二・九・一講師 大正二・四・二二八助教授 大正一三・三・二四教授 昭和一一・三・一一二五總長就任 昭和二〇・一・一退職 昭和一二・三・一九名譽教授 昭和二三・四・一三死亡	文學博士 羽田亨
朝鮮史	大正二・三・三一講師 大正五・一・二二助教授 大正一五・五・七教授(兼) 昭和七・五・二〇死亡	文學博士 今西龍
倫理學	大正一四・三・二講師 大正一四・七・二八助教授 昭和九・七・二五轉任 三・三一教授 昭和九・七・二五轉任	文學博士 和辻哲郎

美學美術史	大正八・八・一八助教授	昭和五・五・二三教授	同日死亡	澤村專太郎
西洋史	大正一四・五・一五助教授(兼)	昭和八・五・一一教授	昭和 一七・二・八退職	時野谷常三郎
西洋哲學史	昭和四・四・一講師	昭和八・三・三一助教授	昭和一〇・三・ 三〇教授	九鬼周造
佛敎學	大正一二・四・一講師	昭和四・四・二〇助教授	昭和一〇・ 三・三〇教授	羽溪了諦
印度哲學史	昭和四・四・一講師	昭和九・四・二五助教授	昭和一〇・六・ 二九教授	本田義英
心理學	大正一一・四・二〇講師	昭和四・二・六助教授	昭和一二・ 一・一教授	岩井勝二郎
言語學	大正一二・三・三一講師	昭和六・三・三一助教授	昭和一二・ 一・二・五教授	落合太郎
支那語學	昭和一二・三・二二教授	昭和二・二・六退職		青木正兒
支那文學	大正一五・四・二〇講師	昭和六・三・三一助教授	昭和一二・ 三・三一教授	小牧實繁
支那文學	大正一五・四・二〇講師	昭和二・四・二五助教授	昭和一二・ 四・二四教授	倉石武四郎
支那文學	昭和八・五・二一助教授	昭和一二・三・三〇教授	昭和一二・ 二・二死亡	木村素衛
教育學教授法	昭和八年度以降講師	昭和一二・三・三〇助教授	昭和一二・ 三・八教授	高山岩男
哲學	昭和七年度・一〇年度・一一年度講師	昭和一二・三・三一助 教授	昭和一二・三・三一退 職	久松眞一
佛敎學	昭和七年度・一〇年度・一一年度講師	昭和一二・三・三一助 教授	昭和一二・三・三一退 職	文藝博士
國語學	昭和三・四・一講師	昭和六・三・三一助教授	昭和一二・四・ 三〇退職	文學博士
國文學	昭和一二・三・八・三〇教授	昭和一二・三・八・三〇死 亡		文學博士

舊職員

教育學教授法

昭和二十一年度以降講師 昭和二三・六・五助教 昭和二三・八・三一教授 昭和二三・六・二六教育學部兼任 昭和二三・四・一〇教育學部兼任 昭和二三・六・一〇三一兼任解除 昭和二八年度授業擔當 昭和二五・八・三一教授(兼) 昭和二六・三・三一教育學部に轉 昭和二七年度・二八年度授業擔當

文學博士 下程勇吉

正木正

教育學教授法

教師

英文學

大正五・九・一講師 大正一〇・三・三一教師 昭和九・三・三一滿期解囑 昭和九・四・二九死亡

Edward Clarke

助教

倫理學

明治四一・二・七助教 大正三・九・一四轉任

友枝高彦

倫理學

大正二・七・一〇講師 大正六・九・二八助教 大正二・五・五轉任 昭和一七年度・一八年度講師 大正一三・

文學博士 千葉胤成

西洋史

大正七・九・五講師 大正一一・二・二八助教 一〇・一一死亡

文學博士 植村清之助

西洋史

大正一一・四・一講師 昭和二・七・一九助教(兼) 三・二・二九退職

文學博士 中村直勝

西洋史

大正二・四・四一講師 昭和四・三・二三助教 三・三・二退職同日講師 昭和一九・三・二〇死亡

文學博士 原真乘

國史

昭和六年度以降講師 昭和一一・三・三一助教 一〇・二五轉任 昭和一二・三・三一講師 昭和一二・三・三一助教授 昭和一二・二・二六休職 昭和二三・二・二九退職 昭和二三・一〇・三一年度講師

文學博士 藤直幹

宗敎學

昭和七・一・昭和一四年度講師 昭和一二・二・二六休職 昭和二一・二・二六休職

鈴木成高

西洋史

昭和七・一・昭和一四年度講師 昭和一二・二・二六休職 昭和二一・二・二六休職

鈴木成高

地理學 昭和一二・三・三一 講師 昭和一八・一一・二七 助教授 昭和
 二一・三・三〇 退職
 國史 昭和一一・三・三一 講師 昭和二一・八・二六 助教授 昭和二
 五・四・一 教養部教授に轉 昭和二五年度以降授業擔當
 東洋史 昭和二三・三・三一 講師 昭和二二・六・五 助教授 昭和二三・
 九・二・四 轉任 昭和二九年度講師

講師

伊太利語 昭和八―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二四・一一 (專講)
 西洋史 昭和二五―二六 (講師) 昭和一〇、一五―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二四・八
 (專講) 昭和二四・九―二六 (講師)
 佛蘭西語學 昭和一七―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二四・八 (專講)
 佛蘭西文學 昭和二四・九―三一 (授擔) 昭和二四・六―二五 (專講)
 美學美術史 昭和一一・八・一〇―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二五 (專講)
 心理學 昭和一九・一一―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二六 (專講)
 哲學 昭和二一―二四・五 (講師) 昭和二四・六―二五 (專講)
 倫理學 昭和二四―二五・五 (講師) 昭和二五・五―二六・四 (專講)
 中國語學 昭和二五・六―二六・四 (專講) 昭和二六―三一 (授擔)
 中國文學 昭和二七・五―三〇・四 (專講) 昭和三〇―三一 (授擔)
 ドイツ文學 昭和二七・五―三〇・四 (專講) 昭和三〇―三一 (授擔)

授業擔當

室賀信夫 柴田實 宇都宮清吉
 文學博士 黑田正利 文學博士 村田數之亮
 林憲一郎 上野照夫 八木康正 大島康正
 保田清 田中謙二 鹽谷饒

生理學	明治三九・九—大正二・八	醫學部博士	天谷千松
精神病學	明治四〇・九—昭和九・一二	醫學部教授	今村新吉
國 法 學	明治四〇・九—四一・九	法科大學教授	佐藤丑次郎
經 濟 學	明治四〇・九—四三・七	法科大學助教授	財部靜治
國際公法	明治四一・九—大正二・八	法科大學教授	末廣重雄
財 政 學	明治四一・九—大正元・七	法學部教授	神戶正雄
教育行政	明治四二・九—大正一二・三	法學部博士	織田萬
人 類 學	明治四二・九—大正一二・三	醫學部教授	足立文太郎
數 學	大正元・九—三・七	理工學部教授	和田健雄
經濟學原理	大正二・七—五・一	法科大學教授	小川郷太郎
數 學	大正三・九—一〇・三	理學部博士	園正造
生(理)學	大正三・九—四・六(總長就任)	醫學部教授	荒木寅三郎
生 理 學	大正三—昭和一三	醫學部博士	石川日出鶴丸
地 理 學	大正一三、昭和二—一三	理學部教授	中村新太郎
教育行政	大正一四・三—昭和四・三	法學部教授	佐々木惣一
日本建築史	大正一四・三—昭和二・三	工學部教授	天沼俊一
人 類 學	昭和二・三—九・九	醫學部助教授	金關丈夫
	昭和二、一四、昭和一六—一八		

(講師)

地圖學 昭和三
 教育行政 昭和四、六、八、一〇、一三
 日本法制史 昭和七、八、一〇、一二、一三、一五
 人類學 昭和一〇、一二、一三
 精神病學 昭和一一、一三、一七
 地理學 昭和一二・一三・九・二二(死亡)
 支那哲學史 昭和一二・一四、一七、一八(講師) 昭和一九—二一
 倫理學 昭和二一—二二 昭和二六、二九
 國史學 昭和二一—二二 昭和二六、二九
 地理學 昭和二一後—二七
 社會學 昭和一八・二〇—二二・二五(講師) 昭和二三、二六—二七
 心理學 昭和二三—二三(講師) 昭和二四—二七
 法理學 昭和二四
 生理學 昭和二四
 支那哲學史 昭和一一—一八、昭和二三—二三(講師) 昭和二四—二六
 支那文學 昭和二四—二九
 支那文學 昭和二五、二九
 哲學 昭和二五、二九
 教育學教授法 昭和二五

舊職員

理學部助教授 熊谷直一
 法學部教授 渡邊宗太郎
 法學部教授 牧健二
 醫學部教授 清野謙次
 醫學部教授 三浦百重
 醫學部教授 野滿隆治
 理學部教授 木村英
 人文科學研究所 坂田吉雄
 人文科學研究所 松下山進
 理學部教授 重松俊明
 人文科學研究所 和田陽平
 教養部教授 加藤新平
 法學部教授 平澤興
 醫學部教授 平岡武夫
 人文科學研究所 入矢義高
 人文科學研究所 入矢義高
 教養部助教授 上田泰治
 醫學部講師 黑丸正四郎
 醫學部博士 黑丸正四郎

支那哲學史	昭和二五・二〇—二六	教養部助教授	西田太一郎
英文學	昭和七—九(講師) 昭和二六、二九	教養部教授	深瀬基寬
獨逸話	昭和二六—二七	教養部教授	白井竹次郎
獨逸文學	昭和二六—三〇	教養部教授	吉田次郎
教育學教授法	昭和二六—二八	教育學部教授	鯉坂二夫
心理學	昭和二六、二九、三〇	教育學部助教授	末永俊郎
心理學	昭和二六—二八	教育學部助教授	苧坂良二
英文學	昭和二七、二九	教養部助教授	山村武雄
西洋哲學史	昭和二八	理學部教授	小堀憲
英文學	昭和二八、三〇	教養部助教授	中野正順
英文學	昭和二八	教養部助教授	飯沼馨
西洋史學	昭和二六(講師) 昭和二八—二九	人文科學研究所助教授	會田雄次
英文學	昭和二九	教養部助教授	石田 仁
英文學	昭和二九	教養部助教授	山內邦臣
考古學	昭和一七前、昭和二二—二三(講師) 昭和三〇	人文科學研究所教授	貝塚茂樹
哲學	昭和三〇	教養部助教授	辻村公一
英文學	昭和三〇	教養部助教授	角倉康夫
東洋史學	昭和三〇	人文科學研究所助教授	小野川秀美

講師 (非常勤)

哲蘭西語學	明治三九・一〇—大正一一・一〇(死亡)	Pi�re Aurientis
佛蘭西語學	明治三九・一〇—大正二・八	Emil Schiller
獨逸語學	明治三九・一〇—大正七・二一(死亡)	熱田 靈 知
印度哲學史	明治三九・一〇—大正一五・三	F. A. Lombard
英語	明治四〇・九—大正三・七	Sidney L. Gulick
宗教學	明治四〇・九—大正一・一(死亡)	藪田 宗 惠
宗 教 學	明治四〇・九—大正三・九	武 田 五 一
美 國 文 學	明治四一・九—大正七・二(死亡)	文學博士 幸 田 成 行
東 洋 史	明治四一・九—大正一五・一〇	富 岡 謙 藏
支 那 語	明治四二・二—大正五・九	徐 東 泰
東洋美術史	明治四二・九—大正一〇・四	瀧 精 一
西 洋 史	明治四二・九—四四・五	中 村 善 太 郎
國 史	明治四三・四—四四・九	幸 田 成 友
英 語	明治四三・九—四五・八	Morton Dexter Dunning
露 西 亞 語	明治四三・九—大正二・八	三 井 道 郎
經濟地理	明治四三・九—大正二・八	中 目 覺

舊 職 員

露西亞語 大正元・九―三・七

小西 增 太郎

獨文 學 大正二―一三 大正一四・九―昭和一二・三

F. O. Hellfrisch

羅甸 語 大正二・九―四・五

田村 初 太郎

朝鮮 史 大正二・一二―五・九

河 合 弘 民

宗 教 學 大正三・九―一五・三

日 野 眞 澄

露西亞 語 大正三・一一―九・四(死亡)

山 口 茂 一

佛 教 學 大正四・九―昭和六・三

文學 博 士

齋 藤 唯 信

西 藏 語 大正四・九―昭和二・三

寺 本 婉 雅

心 理 學 大正四・九―五・九

文學 博 士

大 槻 快 尊

支那 文 學 大正五・九―一〇・八

文學 博 士

西 村 時 彦

朝 鮮 語 大正五・九―九・一〇

文學 博 士

多 田 桓

梵 文 學 大正七―昭和一四

文學 博 士

常 磐 井 堯 猷

露西亞 語 大正九・一一―一二・三

法 學 博 士

目 時 金 吾

哲 學 大正一〇・五―昭和二・四

法 學 博 士

左 右 田 喜 一 郎

社 會 學 大正一〇・九―一一・一〇

法 學 博 士

十 時 彌

獨 逸 語 大正一〇・八―一四・八

法 學 博 士

片 山 正 雄

羅 甸 語 大正一一・八―昭和三・三

法 學 博 士

Charles G. Elder

英 文 學 大正一二・四―昭和四・八

法 學 博 士

N. A. Nevsky

露 西 亞 語 大正一二・一―一四・三

法 學 博 士

Oreste Plehner

佛 蘭 西 語 大正一二・一―一四・三

法 學 博 士

Oreste Plehner

西洋史	大正一三・三一・一五三	昭和三・二一・六三	昭和一七前	文學博士	大類 仲
有職故實	大正一三・四一・昭和五・一一				關保之助
希臘語	大正一三・六一・昭和六・三				菊地慧一郎
獨逸文學	大正一四・四一・昭和二・五	昭和二・八一・七・三			Hans Überschal
アラビア語	大正一四・四一・昭和四・八				松本重彦
地理學	大正一四一昭和二一				小野鐵二
獨文學	大正一四・二〇一昭和一五			文學博士	雪山俊夫
國史	大正一四、昭和二、六、八、一〇、一二、一四、一六、一七後				藤井甚太郎
佛蘭西文學	大正一四・五一・一五・三				Adolf Wagner
佛蘭西文學	大正一五・四一・昭和四・八				Marcel Robert
社會學	大正一五・二〇一昭和八・三、一五				戸田貞三
社會學	大正一五・四一・昭和八・三			法學博士	三浦新七
支那話	大正一五・二〇一昭和一七				徐仁怡
考古學	昭和二・四一・八・三				原田淑人
佛敎學	昭和二一三				手島文倉
社會學	昭和二・四一・三・八(死亡)				五十嵐信
宗敎學	昭和二一・二一・五			文學博士	山谷省吾
日本佛敎史	昭和三				山田文昭
西洋史	昭和三				石田幹之助

教育學	昭和三、五、七、九、昭和一二—二三·六(死亡)	文學博士	高橋俊乘
地理學	昭和三、九、一〇		春本篤夫
心理學	昭和四—八		高木貞二
社會學	昭和四—六		今井時郎
國文學	昭和四—六		能勢朝次
印度哲學	昭和四		田村德海
日蘭外交史	昭和四		W. H. de Roos
國史	昭和四、五、七、九		大塚武松
露西語	昭和四·八—二四		十時惟親
日本華嚴宗史	昭和五		河野法雲
社會學	昭和五		岩崎卯一
伊太利語	昭和五—六	文學博士	Alfonso Gasco
佛蘭西文學	昭和五—六		Geoges Bonneau
佛蘭西文學	昭和五·四—六·七		Roger Ballet
日本美術史	昭和六		福井利吉郎
日本淨土宗史	昭和六		林 彦 明
東洋史	昭和六—一七		篤 淵 一
佛蘭西文學	昭和六·九—一〇		Henri Garnier
西洋美術史	昭和七—八		須田國太郎
	昭和一一、三四		

佛蘭西文學 昭和七・四一八・六
 日本眞言宗史 昭和七
 國史 昭和七、九
 支那語學 昭和七—一六
 支那文學 昭和七、一〇
 東洋史 昭和七—一一
 國文學 昭和七—一一
 梵語學 昭和七—一一
 梵文學 昭和七—一一
 考古學 昭和七・二〇—一二
 國文學 昭和八
 國文學 昭和八—九 昭和一二—一六
 西洋史 昭和八—九、昭和一二、一七後
 眞宗史 昭和八
 教育學教授法 昭和八、一一
 東洋史 昭和八
 神道史 昭和八
 英文學 昭和八
 佛蘭西文學 昭和八・一一—一〇・六
 國史 昭和八、一〇
 國史 昭和八、一〇、一二、一四・九(死亡)

舊職員

Albert Lautman 姆尾祥雲
 文學博士 辻善之助
 傅芸子
 和田清
 市川寬
 高島寬我
 島田貞彥
 文學博士 佐々木信綱
 佐伯梅友
 岡島誠太郎
 上杉文秀
 篠原助市
 文學博士 池內宏
 村岡典嗣
 土居光知
 Paul Iseler
 文學博士 黑板勝美
 牧野信之助

伊太利語	昭和八―二四・五 五―二六(講師)	昭和二四・六―二四・二一(專講)	昭和二	文學博士	黑田正利
日本神祇史	昭和八―一八			文學博士	宮地直一
佛敎學	昭和九				花田凌雲
英文學	昭和九				F. L. Huntley
國文學	昭和九				久松潛一
英文學	昭和九、二三、二五、二六、二九			文學博士	矢野禾積
國史	昭和九、一五				原田敏明
東洋史	昭和九			文學博士	加藤繁
國史	昭和九、一一、昭和一三―二二			文學博士	魚澄惣五郎
氣象學	昭和九			文學博士	岡田武松
心理學	昭和九―一八			理學博士	岡田道固
國史	昭和九、一二				柳田國男
教育學教授法	昭和九―一二			文學博士	長田新
美術史	昭和九―一八前 昭和二七―二八				源豐宗
有職故實	昭和九―一三				出雲路通次郎
英文學	昭和九―三一			文學博士	細江逸記
哲學	昭和一〇				土井虎賀壽
印度哲學史	昭和一〇―一三〇			文學博士	山口益
美學	昭和一〇				中井正一

佛	佛	英	英	西	西	東	東	佛	佛	英	英	西	佛
教	蘭	文	文	洋	洋	洋	洋	教	蘭	文	文	洋	教
學	西	學	學	史	史	史	史	學	西	學	學	史	學
昭和一〇	昭和一〇・二一―二一・二六	昭和一〇	昭和一〇・一一―一五	昭和一	昭和一	昭和一、一六	昭和一	昭和一〇・二一―二一・二六	昭和一〇・二一―二一・二六	昭和一〇	昭和一〇・一一―一四	昭和一〇・九―二六(講師)	昭和一〇、昭和一五―二四・五、昭和二四・六―二四・八(專講)
望月 歡厚													文學博士
村田 數之亮													文學博士
竹友 鼎雄													文學博士
Alfred J. Singleton													
Pierre Bertrand													
禿氏 祐祥													文學博士
岡崎 文夫													
杉本 直治郎													
千代田 謙													
田中 秀作													
Alexander Ashton													
C. J. L. Bates													
內山 貞三郎													文學博士
宇野 圓空													
島田 退藏													
春日 政治													文學博士
片山 正直													文學博士
Karl Löwith													
石濱 純太郎													
東洋史	社會學	宗教學	國文學	國文學	國文學	國文學	獨逸文學	英文學	英文學	西洋史	西洋史	東洋史	東洋史
昭和二一―二五	昭和二	昭和二一―二五、昭和二七、二二、昭和二八―二九	昭和二一―二二	昭和二一―二二	昭和二一、一七前	昭和二一、一七前	昭和二一	昭和二一―一五	昭和二	昭和二	昭和二、一六	昭和二	昭和二

地 理 學	昭和一二一八		
英 文 學	昭和一二一三		
言 語 學	昭和一二一七前	文學博士	室 賀 信 夫 H. F. Woodsworth
佛 蘭 西 語	昭和一二		
獨 逸 文 學	昭和一二・三一五・七		
佛 蘭 西 文 學	昭和一二・二〇・二五・三		
西 洋 哲 學 史	昭和一二・一五、一七、一八		
西 洋 哲 學 史	昭和一二・一五	文學博士	Cardon de Montigny 三 井 浩
社 會 學	昭和一二		
地 理 學	昭和一二		
地 理 學	昭和一二		
地 理 學	昭和一二		
國 語 學	昭和一二・一五	文學博士	下 村 寅 太 郎 松 本 潤 一 郎 池 邊 展 生 藤 田 元 春 橋 本 進 吉
獨 逸 文 學	昭和一二・一四、昭和一二・一八		
梵 文 學	昭和一二・一五	文學博士	Erwin Jahn 黑 田 親
國 史	昭和一二・一六、一七後	文學博士	赤 松 智 城
社 會 學	昭和一二・二三		
國 史	昭和一二・二三		
地 理 學	昭和一二・一五		
地 理 學	昭和一二・一五		
西 洋 古 典 文 學	昭和一二		
			東 伏 見 邦 英 米 倉 二 郎 John A. Pletcher

國史 昭和四

國史 昭和四

英文學 昭和四・一〇—一六

支那哲學史 昭和一五

宗教學 昭和一六

社會學 昭和一六

伊太利文學 昭和一六—一八

伊太利文學 昭和一六—一八

佛蘭西語學 昭和一六

佛蘭西語學 昭和一六—一八

社會學 昭和一七前

佛教學 昭和一七

西洋史 昭和一七—一八、昭和二三—二三、昭和二七、三〇

地理學 昭和一七前

英文學 昭和一七—一八

言語學 昭和一七

支那語學 昭和一七前

支那語學 昭和一七前

支那語學 昭和一七前

佛蘭西語學 昭和一七—一八

文學博士 清原貞雄
文學博士 折口信夫

Arthur P. Mckenzie

常磐井賢十

長澤信壽

奥井復太郎

Rosco Maraini

小田良弼

市村惠吾

吉田三郎

難波紋吉

釘宮武雄

中山治一

川上健三

一柳米來留

三田村泰助

陳希昌

鄭兆麟

大坪一

舊職員

獨逸文學 昭和一七、昭和二〇—二三

文學博士

小牧健夫

社會學 昭和一七

牧野巽

支那語學 昭和一七

陳瑜

支那語學 昭和一七・九—二〇・九

羅繼禎

支那語學 昭和一七・九—二〇・五

王之淳

心理學 昭和一七—一八

內藤耕次郎

英文學 昭和一七—一八

兼弘正雄

東洋史 昭和一七

內田吟風

東洋史 昭和一七、昭和一九—二〇

外山軍治

支那語 昭和一七—二三

金子二郎

地理學 昭和一七後

松井武敏

東洋史 昭和一八—二一

愛宕松男

地理學 昭和一八

別技篤彦

亞刺比亞語 昭和一八—二二

林昂

馬來語 昭和一八—二〇

內藤春三

英文學 昭和一九—二六

堀藤正人

心理學 昭和一九・二—二四・五

八木正晃

西洋哲學史 昭和二〇—二一・五

多賀瑞心

倫理學 昭和二〇

室田泰一

昭和二四・六—二六(專講)

昭和二七(講師)

支那文學	昭和二〇・五—二一・一	昭和二八・一〇—二九・三
支那文學	昭和二一—二四・五	昭和二四・六—二五(專講)
哲 學	昭和二一	
英 文 學	昭和二一後	昭和二三
國 史	昭和二三、三〇	
美學美術史	昭和二三—二五	
英 文 學	昭和二三	
考 古 學	昭和二三	
支那文學	昭和二三	
支那文學	昭和二三—二五	
西洋哲學史	昭和二三	
倫 理 學	昭和二三	
美學美術史	昭和二三	
圖 書 館 學	昭和二三—二四	
圖 書 館 學	昭和二三—二四	
地 理 學	昭和二三—二四	
基 督 教 學	昭和二四—二五	
東 洋 史 學	昭和二四—二九	
支那哲學史	昭和二四—二六	
國 史 學	昭和二四	
支 那 語	昭和二四—二七	

舊 職 員

金 毓 本	文學博士
大 島 康 正	文學博士
Patric James Byrne	文學博士
平 山 敏 治 郎	文學博士
島 田 脩 二 郎	文學博士
大 塚 高 信	文學博士
淺 野 清	文學博士
陳 來 峰	文學博士
Paul Egli	文學博士
田 中 熙	文學博士
土 居 火 義	文學博士
大 佐 三 四 五	文學博士
田 中 敬	文學博士
喜 多 村 俊 夫	文學博士
山 崎 亨	文學博士
村 上 嘉 實	文學博士
森 三 樹 三 郎	文學博士
西 岡 虎 之 助	文學博士
伊 地 智 善 繼	文學博士

教育學教授法 昭和二四

教育學教授法 昭和二五

國 史 學 昭和二五

地 理 學 昭和二五—三〇

國 語 學 昭和二五

國 文 學 昭和二五

教育學教授法 昭和二五

佛 蘭 西 文 學 昭和二五—二六

美 學 美 術 史 昭和二五

國 史 學 昭和二五

支 那 語 學 昭和二五—二七

支 那 文 學 昭和二五

國 史 學 昭和二五

國 文 學 昭和二六、二八、二九

哲 學 昭和二六—二七

佛 教 學 昭和二六

教育學教授法 昭和二六

美 學 美 術 史 昭和二六

基 督 教 學 昭和二六—三〇

哲 學 昭和二六、二八

國 史 學 昭和二六

前 田 博

廣 岡 亮 藏

橫 田 健 一

村 松 繁 樹

小 島 吉 雄

末 永 俊 郎

Georges Albert Lance

張 源 祥

時 野 谷 勝

黎 波

家 永 三 郎

金 田 一 春 彦

山 元 一 郎

舟 橋 一 哉

黑 丸 正 四 郎

佐 和 隆 研

Gwilym G. Lloyd

伊 藤 誠

岩 生 成 一

文 學 博 士

國史學 昭和二六
 國語學 昭和二六
 國文學 昭和二六
 朝鮮語 昭和二六
 西洋古典文學 昭和二六、二九
 英文學 昭和二七
 社會學 昭和二七
 國史學 昭和二七—三〇
 國語學 昭和二七、三〇
 國文學 昭和二七、三〇
 中國語學 昭和二七
 中國文學 昭和二七
 英文學 昭和二七
 言語學 昭和二七—三一・四(死亡)
 言語學 昭和二七
 西洋古典文學 昭和二七—二八
 伊太利語學 昭和二七—二八
 伊太利文學 昭和二七、三〇
 哲學 昭和二七
 支那哲學史 昭和二七
 美學美術史 昭和二七
 中國語學 昭和二七—二八
 中國文學 昭和二七—二八

舊職員

大間知篤三
 吉田精一
 河野六郎
 神田盾夫
 文學博士
 Gregory J. Gimartin
 藏內藪太
 石田一良
 山崎喜好
 谷山茂
 文學博士
 橋本循
 老田三郎
 山崎忠
 富田竹二郎
 原納一富
 Enrico Gallo
 近藤洋逸
 加藤常賢
 竹內敏雄
 文學博士
 小野忍

哲 學	昭和二八
哲 學	昭和二八
佛 教 學	昭和二八—二九
西 洋 史 學	昭和二八—二九
國 國 文 語 學	昭和二八—二九
國 國 文 語 學	昭和二八—二九
中 國 文 語 學	昭和二八
中 國 文 語 學	昭和二八
支 那 哲 學 史	昭和二八
西 洋 史 學	昭和二八
獨 逸 文 學	昭和二八
言 語 學	昭和二八
佛 蘭 西 文 學	昭和二八
美 學 美 術 史	昭和二九
中 國 文 語 學	昭和二九—三〇
佛 蘭 西 文 語 學	昭和二九
佛 蘭 西 文 語 學	昭和二九
中 國 文 語 學	昭和二九—三〇
社 會 學	昭和二九—三〇
美 學 美 術 史	昭和二九
言 語 學	昭和二九—三〇

文學博士

文學博士

文學博士

井 野 岡 藤 波 增 蓮 有 德 原 水 後 岳 岡 中 今 安 平 齋
筒 村 崎 野 邊 田 實 永 永 田 川 藤 藤 見 村 津 藤 下 藤
俊 良 文 岩 一 重 弘 康 義 濶 俊 守 正 幸 俊 欣 信
彥 雄 規 友 夫 涉 康 人 元 人 二 瑞 謙 雄 彥 晃 雄 一 治

哲	西洋 古典 文學	西洋 古典 文學	フ ラン ス 語 學	フ ラン ス 語 學	西 洋 史 學	東 洋 史 學	英 文 學	英 語 學	社 會 學	國 文 學	國 語 學	佛 教 學	國 文 學	國 語 學	國 語 學	人 文 地 理 學	東 洋 史 學	美 學 美 術 史	獨 逸 文 學	獨 逸 語 學	西 洋 史 學	支 那 哲 學 史	國 文 學	國 語 學
	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 三 〇	昭 和 二 九	昭 和 二 九	昭 和 二 九	昭 和 二 九	昭 和 二 九	昭 和 二 九

舊
職
員

文學
博士

三 村 勉	高 津 春 繁	鈴木 信 太 郎	増 田 四 郎	宮 川 尙 志	Dennis J. Faright		作 田 啓 一	土 橋 寛	服 部 止 明	塚 原 鐵 雄	渡 邊 實	山 口 平 四 郎	大 島 利 夫	金 田 民 夫	會 津 伸	兼 岩 正 夫	佐 藤 匡 玄	荻 野 清
-------------	------------------	-------------------	------------------	------------------	-------------------	--	------------------	-------------	------------------	------------------	-------------	-----------------------	------------------	------------------	-------------	------------------	------------------	-------------

事務主任・事務長

明治三九・一〇・五——昭和七・一・九

昭和七・一・一〇——昭和一二・二・二〇

昭和一二・二・二〇——昭和一九・八・三一

昭和一九・九・一——昭和一九・八・三一

昭和一九・九・一——昭和二三・九・二三

昭和二三・九・二三——昭和二六・八・一六

昭和二六・八・一六——昭和二九・七・一五

伊津野 直

吉田 孫一

上島 竹三郎

吉田 良馬

生駒 正教

水野 喜久三

吉田 良馬

研究室・事務室組織

學部長

教授 吉川幸次郎

教養部 教授 田村松平

講師 V. Pouliot

講師 服部英次郎

講師 藤澤令夫

助手 日下昭夫

哲學科

哲學研究室

印度哲學史研究室

教育部

教授 三宅剛一
教授 高坂正顯

講師 森口美都男

講師 澤瀉久敬

講師 G. Knasss

助手 酒井修

支那哲學史研究室

教授 松尾義海

講師 佐保田鶴治

講師 中野義照

教授 重澤俊郎

講師 湯淺幸孫

講師 本田濟

講師 福永光司

雇員 川勝裕子

西洋哲學史研究室

教授 田中美知太郎

教授 高田三郎

教授 野田又夫

研究室・事務室組織

四〇七

心理學研究室

教授 欠田部達郎
 教授 園原太郎
 教授 佐藤幸治
 助教授 柿崎祐一
 講師 本吉良治
 講師 今田惠

社會學研究室

講師 廣田君美
 講師 辻岡美延
 講師 岩原信九郎
 助手 木下富雄
 矢守章二

倫理學研究室

教授 島芳夫
 助教授 保田清
 講師 岸畑豐

美學美術史研究室

教授 井島勉
 教授 上野照夫

教養部 助教授 梶野 脛
 講師 吉川逸治
 講師 新規矩男
 講師 河本敦夫
 助手 吉岡健二郎
 上平 貢

教授 白井二尙
 教授 姬岡 勤

教養部 教授 江藤則義
 助教授 池田義祐

教育部 助教授 渡邊洋二
 講師 杉之原壽一

講師 J. H. Steward
 助手 益田庄三
 雇 坂口清

宗教學研究室

教授 西谷啓治
 助教授 武內義範

佛敎學研究室

教養部 助教授 武藤 一雄

東洋史研究室

講師 棚瀬 襄爾

教授 長尾 雅人

教授 塚本 善隆

教授 藤吉 恣海

助手 梶山 雄一

人文科學
研究所

史學科

國史研究室

教授 小葉田 淳

教授 赤松 俊秀

教授 柴田 實

助教授 岸 俊男

講師 三品 彰英

講師 林屋辰三郎

講師 梅溪 昇

助手 門脇 禎二

小久保 淑子

教授 宮崎 市定

教授 田村 實造

教授 塚本 善隆

教授 安部 健夫

教授 羽田 健夫

助教授 佐伯 富

助教授 佐藤 長

助教授 島田 虔次

講師 曾我部 靜雄

助手 里井 彦七郎

萩原 淳平

教授 原 隨園

教授 井上 智勇

教授 中原 與茂九郎

助教授 前川 貞次郎

助教授 豐田 堯

講師 越智 武臣

地理學研究室

講師 岡部 健彦
助手 加藤 一朗

史學科共通

助手 西谷 眞治
西井 千津子

教養部

教授 織田 武雄
教授 藤岡 謙二郎

獨書講讀

講師 越智 武臣

人文科學研究所

教授 森 鹿三
助教授 西村 睦男

佛書講讀
英書講讀

講師 樋口 隆康
助手 加藤 一朗

人文科學研究所

講師 日比野 丈夫
講師 帷子 二郎

文學科

國語學國文學研究室

講師 野間 三郎
講師 小野 三正
助手 末尾 至行

教授 遠藤 嘉基
教授 野間 光辰
教授 池上 禎造

考古學研究室

人文科學研究所

教授 長廣 敏雄
教授 水野 清一
助教授 有光 教一

教養部

助教授 濱田 敦
助教授 阪倉 篤義

人文科學研究所

講師 小林 行雄
講師 山內 清男
助手 橫山 浩一

教養部

講師 玉上 琢彌
講師 小島 憲之
講師 鹽田 良平

助手 橫山 浩一

助手 柁 源一

中國語學中國文學研究室

人文科學
研究所

教授 吉川幸次郎
 教授 小川環樹
 助教授 田中謙二
 講師 徐新元
 講師 神田喜一郎
 講師 斯波六郎
 講師 高木正一
 雇員 西村富美子

英語學英文學研究室

教養部 教授 生島遼一
 教養部 教授 田中俊一
 教養部 助教授 林 憲一郎
 教養部 助教授 木城 格
 教養部 助教授 渡邊明正
 教養部 助教授 後藤敏雄
 講師 J. P. Hauchecorne
 (休職) 助手 大橋保夫

梵語學梵文學研究室

教授 足利惇氏
 講師 伊藤義教
 講師 善波周
 講師 澤英三
 講師 大地原豐
 助手 井本英一

フランス語學フランス文學研究室

人文科學
研究所

教授 伊吹武彦
 教授 桑原武夫

教授 中西信太郎
 教養部 教授 山本修二
 教養部 教授 小林象三
 教養部 教授 池田義一郎
 教養部 教授 村上至孝
 教養部 教授 宮西光雄
 助教授 御與員三
 助教授 菅泰男
 助教授 川田周雄
 教養部 助教授 森清

研究室・事務室組織

講師 J. C. Murrell
 講師 R. H. Grant
 講師 A. S. Thwaite
 講師 山本忠雄
 講師 藤好美
 講師 N. E. Nelson
 助手 中 沼 了

ドイツ語學ドイツ文學研究室

教授 大山 定一
 教養部 教授 古松 貞一
 教養部 教授 若林 光夫
 教養部 助教授 谷 友幸
 教養部 助教授 高安 國世
 教養部 助教授 石川 敬三
 教養部 助教授 鹽 谷 饒
 教養部 助教授 田川 基三
 講師 三浦 アンナ
 助手 林 功三

イタリア語學イタリア文學研究室

助教授 松平 千秋
 講師 小川 政恭
 講師 中村 善也
 講師 山 田 晶
 講師 岡 田 正三
 講師 鈴木 照雄
 講師 關 本 至
 助手 柳 沼 重剛

言語學研究室

教授 泉井 久之助
 講師 澤 英三
 講師 大地 原 豊
 講師 鄭 寅 燮
 助手 池 田 廉

西洋古典語學西洋古典文學研究室

教授 泉井 久之助
 講師 澤 英三
 講師 大地 原 豊
 講師 鄭 寅 燮
 助手 池 田 廉

各科共通

講師 西田龍雄
講師 關本至
助手 井本英一

中國語
フランス語

事務室

人文科學
研究所

講師 清水雄二郎
助手 多田道太郎

文學概論

教授 野上素一

事務長

事務官 城田榮一

ギリシア語

助教授 松平千秋

庶務掛

雇 荒川順太郎

チベット語

助教授 佐藤長

庶務掛長

事務官 木村治雄

ロシア語

助教授 植野修司

雇 萩原陽雄

ギリシア語

講師 鈴木照夫

雇 川並直子

ラテン語

講師 中村善也

青木宮美子

ラテン語

講師 山田晶

會計掛

アラビア語

講師 藤本勝次

會計掛長

事務官 松井重治

各學部共通

ギリシア語

助教授 松平千秋

雇 林茂

ラテン語

講師 中村善也

教務掛

雇 松村昭一

ドイツ語

講師 大城功

教務掛長

事務官 加藤勇

研究室・事務室組織

四一三

事務官 六浦 眞然

雇 平井 瑠璃子

教官 佐々木 邦彦

雇 安 田 健

雇 内藤 朋子

安 田 圭子

雇 國枝 しづ子

運用掛

雇 坂 田 吉彦

雇 鈴木 千恵子

運用掛長

雇 立 石 サ々

雇 鷲 田 清一

哲學科

雇 小 關 清治郎

雇 田 中 直夫

史學科

雇 森 島 達

事務官 谷口 寛一郎

寫眞掛

教官 高橋 猪之介

圖書室長

受入掛

受入掛長

(兼) 谷口 寛一郎

自動車掛

雇 石 田 國太郎

雇 大森 喜代子

新海 壽子

中村 久藏

宮本 信一郎

目錄掛

目錄掛長

教官 村橋 瑠璃 嬰

事務官 寺 本 玲子

雇 小森 富美子

學位受領者表

本學部教授會の審査を経て授與されたものを學位記番號順に記す

舊學位令による文學博士

(明治二十年五月二十日公布勅令第一三號および明治三十一年十二月九日公布勅令第三四四號によるもの)

受領年月日	主 題 及 題 目	本 籍	氏 名
大正一〇・一二・二〇	社會結果論	佐賀	高田保馬
大正一一・五・二七	唐代ノ回鶻ニ關スル研究	京都	羽田亨
大正一一・六・三	The Principles of the Education of Thought	山形	岡部爲吉
大正一一・六・七	朝鮮史の研究	岐阜	今西龍
大正一一・一二・一八	心理學ノ對象	宮城	千葉胤成
大正一二・一・二五	兩眼視現象の研究に就て	熊本	黒田源次
大正一二・一・二五	原始的神聖觀念の研究	山口	赤松智城
大正一二・一・二五	精神的動作之發達	岡山	檜崎淺太郎
大正一四・一二・二五	日本の音樂に就ての一觀察	山口	兼常清佐
昭和三・三・一	古韻ノ變遷	神奈川	大島正健
昭和七・一〇・三一	佛教之美術及歴史	神奈川	小野玄妙

新學位令による文學博士 (大正九年七月五日公布勅令第二〇〇號によるもの)

大正三・五・二二	王朝の庶民階級	大阪	西田直二郎
大正二四・七・二〇	銅鉾銅劍の研究	宮城	高橋健自
大正二四・七・三一	假名ノ研究	新潟	大矢透
大正一五・八・二二	徳川幕府神社制度ノ研究	大分	清原貞雄
大正一五・八・二二	佛敎ニ於ケル二大唯心論	新潟	齋藤唯信
昭和二・四・二三	北宋五子哲學	兵庫	松山直藏
昭和三・四・六	老子 原始	三重	武内義雄
昭和三・七・一八	平安朝女裝ノ史的研究	東京	櫻井秀
昭和三・一〇・一一	歐洲中世史初頭に於ける國家的社會的轉換期に關する研究	京都	植村清之助
昭和四・四・一	藝術 哲學	京都	植田壽藏
昭和五・四・一八	認識の存在論的基礎	京都	山内得立
昭和五・九・三	疾風怒濤時代と現代獨逸文學	東京	成瀬清
昭和五・九・三	De Quin Particula Latina Eiusque Usu Historico	愛媛	田中秀央
昭和五・九・一三	The Hohenzollern Testaments and the Diplomatic Policy of the two Electors	東京	長壽吉
昭和五・九・一三	教育ノ本質ト教育學	愛媛	篠原助市

昭和六・一・一〇	萬葉集仙覺本の研究	東京	武田祐吉
昭和六・四・一	Wilhelm Dilthey's Methode der Lebensphilosophie	島根	勝部謙造
昭和六・四・八	Die aeusseren Hauptursachen der Entwicklung der scholastischen Philosophie im Mittelalter	宮城	佐藤清太郎
昭和六・六・八	「純粹理性批判」ノ形而上學的性格	神奈川	天野貞祐
昭和六・六・八	支那古代社會の研究	高知	小島祐馬
昭和六・七・二三	支那經學史論	岐阜	本田成之
昭和六・九・二二	「ラ・コメデ・ユメーヌ」の研究	京都	太宰施門
昭和六・九・二二	玉篇ノ研究	福井	岡井慎吾
昭和七・六・二〇	光海君時代ノ滿鮮關係	新潟	瀧田葉岩吉
昭和七・七・一五	原始佛敎の實踐哲學	兵庫	和辻哲郎
昭和七・一・一〇	偶然性	東京	九鬼周造
昭和八・一・二六	「ロマ書講解」に現れしルッターの根本思想	福島	佐藤繁彦
昭和八・二・二〇	ペスタロッチー	長野	長田新
昭和八・五・二二	テセウス傳説考	愛知	原田隨園
昭和八・五・二二	普埃戰役に關するピスマルクの外交	茨城	時野谷常三郎
昭和八・一〇・一四	ジョンソン博士とその群	山口	石田憲次
昭和九・七・二五	西域佛敎ノ特徴	福井	羽溪了諦
昭和九・八・一八	印度學方法論より觀たる法華經	京都	本田義英

昭和九・八・二七	Riyô et Minyô ou L'Expression poetique dans le Folk-Lore Japonais	佛國	ジュール・ジュ・ボノール
昭和一〇・五・一五	ヘーゲル精神現象ト客觀的精神ノ研究	長野	務臺理作
昭和一〇・五・二四	支那近世戯曲史	山口	青木正兒
昭和一〇・五・二四	魏晉南北朝時代に於ける經濟並に社會制に關する研究	富山	岡崎文夫
昭和一〇・七・八	アーノルドの文學論	岡山	矢野禾積
昭和一〇・七・八	ニーベルンゲンの歌基礎の研究	富山	雪山俊夫
昭和一〇・九・四	上代歌謡の作者及び時代考	三重	澤瀉久孝
昭和一一・六・九	連歌の史的研宄	東京	福井久藏
昭和一一・九・一	假名の發達より觀たる國語文體の成立	長野	春日政治
昭和一一・九・二四	A Comparative Study of English with Special Reference to the Cursor Mund, the Northern Passion, the Gospel of Nicodemus, the Life of Saint Anne, and a Stanzaic Life of Christ	岐阜	木方庸助
昭和一一・一一・二二	デョージ・エリオットの作品に用いられたる英國中部地方言の研究	三重	細江逸記
昭和一一・一一・二二	ジョアン・ロドリゲスの著せる日本文典の研究	廣島	土井忠生
昭和一一・一一・二二	具體的言語と抽象的言語(言語學的文學論)	東京	落合太郎
昭和一二・七・六	パウロの神學	岡山	山谷省吾

昭和二・八・五	先史地理學研究	滋賀	小牧實繁
昭和二・八・五	運動把捉に關する研究	兵庫	福富一郎
昭和二三・四・一六	唐の開元末天寶初期の交が時世の一變轉たるの考證並に主として燉煌發見史料に據る天寶以後唐末に至る期間の庶民に關する二三の研究		
昭和四・三・四	教育學の方法についての一考察	徳島	那波利貞
昭和四・三・三〇	支那青銅器時代の研究	京都	伊藤猷典
昭和四・三・三〇	段懋堂の音學	大阪	梅原末治
昭和四・二一・二四	倫理學序説——倫理學の認識論的基礎	新潟	倉石武四郎
昭和五・三・二三	歴史的世界 現象學的試論	廣島	世良壽男
昭和五・三・二三	實踐的存在の基礎構造	愛知	高坂止顯
昭和五・七・八	近代獨逸思潮史	石川	木村素衛
昭和六・四・九	祕密佛敎の研究	東京	吹田順助
昭和七・一・一九	文選李善注所引尙書の研究	和歌山	榎尾祥雲
昭和八・六・二一	佛敎に於ける無と有との對論	石川	斯波六郎
昭和八・七・二四	學の形成と自然的世界	京都	山崎口益
昭和一九・六・二四	有部阿毘達磨論の研究	岡山	三宅剛一
昭和一九・一・八	宗敎ノ眞理	島根	渡邊棧雄
昭和一九・一・一三	宗祖としての道元禪師	愛知	片山正直
		東京	衛藤即應

學位受領者表

昭和二〇・五・二五	行爲の全體的構造	福井 島 芳 夫
昭和二〇・六・二五	社會と民族	長野 白 井 二 尚
昭和二〇・八・一五	行爲的世界	神奈川 柳 田 謙 十 郎
昭和二〇・九・三〇	宗 教 哲 學	石 川 西 谷 啓 治
昭和二〇・一一・二五	哲學的人間學	山 形 高 山 岩 男
昭和二〇・一一・二七	無限論の形成と構造	京 都 下 村 寅 太 郎
昭和二〇・一一・二七	ヘルデルリンの自然觀の發展	東 京 小 牧 健 夫
昭和二〇・一一・二七	ゲーテと「ファウスト」	滋 賀 奥 津 彦 重
昭和二一・一一・二〇	方言語彙學的研究	東 京 小 林 好 日
昭和二一・一一・二五	莊園の研究	滋 賀 中 村 直 勝
昭和二一・二二・一九	東洋文庫本華夷譯語百夷館雜字並に來文の解讀 その釋字・釋語・釋文と言語比較的研究	京 都 泉 井 久 之 助
昭和二一・二二・一九	蓮如上人と安藝蓮崇	山 口 伊 藤 義 賢
昭和二一・二二・一九	オリゲネス研究	京 都 有 賀 鐵 太 郎
昭和二一・二二・一九	建武中興を契機とせる政治社會情勢の推移についての考察	兵 庫 魚 澄 惣 五 郎
昭和二一・二二・一九	文體論の建設	東 京 小 林 英 夫
昭和二三・一・三一	東廻海運及び西廻海運の研究	愛 知 古 田 良 夫
昭和二三・一・三一	中世日支通交貿易史の研究	福 井 小 葉 田 淳
昭和二三・一・三一	新羅花郎の研究	滋 賀 三 品 彰 英

昭和二三・一・三一	The Origin and Evolution of the Semitic Alphabets	東京	小辻節三
昭和二三・一・三一	日支交通の研究	京都	藤田元春
昭和二三・三・一九	藝術の創造と歴史	京都	井島勉
昭和二三・三・一九	天道と人道	廣島	下程勇吉
昭和二三・四・二〇	元雜劇研究	兵庫	吉川幸次郎
昭和二三・四・二〇	五代宋初の通貨問題	長野	宮崎市定
昭和二三・五・六	遼代社會經濟史に關する研究	香川	田村實造
昭和二三・五・六	蕪村の傳記の研究	長崎	額原退藏
昭和二三・一・三一	宮座の研究	茨城	肥後和男
昭和二三・一〇・二三	東洋的無の性格	岐阜	久松眞一
昭和二三・一一・二〇	阿倍仲麻呂傳研究	滋賀	杉本直治郎
昭和二三・一一・一八	清初八旗制度考	長崎	鴛淵一
昭和二三・一二・五	宋代財政史	徳島	曾我部靜雄
昭和二三・二・二七	北魏佛敎史之研究	京都	塚本善隆
昭和二三・四・八	クレタ文明の性格	京都	村田數之亮
昭和二三・五・二三	ローマ經濟史の研究	兵庫	井上智勇
昭和二三・五・二三	中世武家故實の研究	徳島	藤直幹
昭和三四・三・三	DANTE の詩と關する MANIFESTO 特は PURGA TORIO, XXIV, 49—63 の研究	岡山	黒田正利

昭和二四・五・三〇 Studies in Early Modern English (初期近代英語の研究)

昭和二四・五・三〇 シェクスピア批評史研究 京都 大塚 高信

昭和二四・九・二〇 古代印度に於けるイラン文化の影響に関する文獻學的研究 東京 中西 信太郎

昭和二四・一二・二七 漢魏六朝文學思想論 東京 足利 惇氏

昭和二五・二・二 經 學 研究 福井 橋 本 循

昭和二五・四・一二 ログスとイデア 東京 重 澤 俊 郎

昭和二五・一・二八 支那訓詁學上より見たる日本書紀古訓攷證 東京 田 中 美 知 太 郎

昭和二五・七・三 印度論理學派の研究 京都 神 田 喜 一 郎

昭和二五・七・三 中觀哲學の根本的立場 長 崎 松 尾 義 海

昭和二五・八・二〇 訓點資料と訓點語の研究 京 都 長 尾 雅 人

昭和二五・七・一一 ウペニシアット文學と其の哲學思想 鳥 取 遠 藤 嘉 基

昭和二五・一〇・一七 實際的個別的智能測定法 兵 庫 佐 保 田 鶴 治

昭和二六・四・一八 元明小説史の研究 滋 賀 鈴 木 治 太 郎

昭和二六・四・一八 雨月物語研究 京 都 小 川 環 樹

A Bibliographical Study of William Blake's Note-book

昭和二六・四・二七 三 重 後 藤 丹 治

昭和二八・四・三 マーヌシュチュフル書翰集の解讀 京 都 壽 岳 文 章

山口 伊 藤 義 教

昭和二八・五・二	辯證法的存在論序説	和歌山	岡野留次郎
昭和二八・八・二五	元朝祕史の研究	神奈川	小林高四郎
昭和二八・八・二五	基督教神學概論	東京	桑田秀延
昭和二八・八・二五	魏晉老莊思想の研究	福岡	村上嘉實
昭和二九・一・二九	人文地理學說史——方法論のための學說史的反省——	群馬	飯塚浩二
昭和二九・三・二四	アリストテレスに於ける實踐理性の構造	東京	藤井義夫
昭和二九・五・七	朝鮮水産業開發過程の地理學的研究	長崎	吉田敬市
昭和三〇・三・七	華嚴に於ける禪	富山	高峰了洲
昭和三〇・一〇・五	古文尙書傳流考	愛知	小林信明
昭和三一・四・二二	古代アジア遊牧民族史の研究	東京	内田吟風
昭和三一・四・二二	漢代社會經濟史的研究	愛知	宇都宮清吉
昭和三一・七・二五	關係把握の研究	山形	佐藤幸治
昭和三一・七・二五	明代建州女直史研究	熊本	園田一龜
昭和三一・八・二三	鐵器時代初期の朝鮮文化	福岡	有光教一